第Ⅲ章　合意形成や情報発信に向けた取組み

第Ⅲ章　合意形成や情報発信に向けた取組み

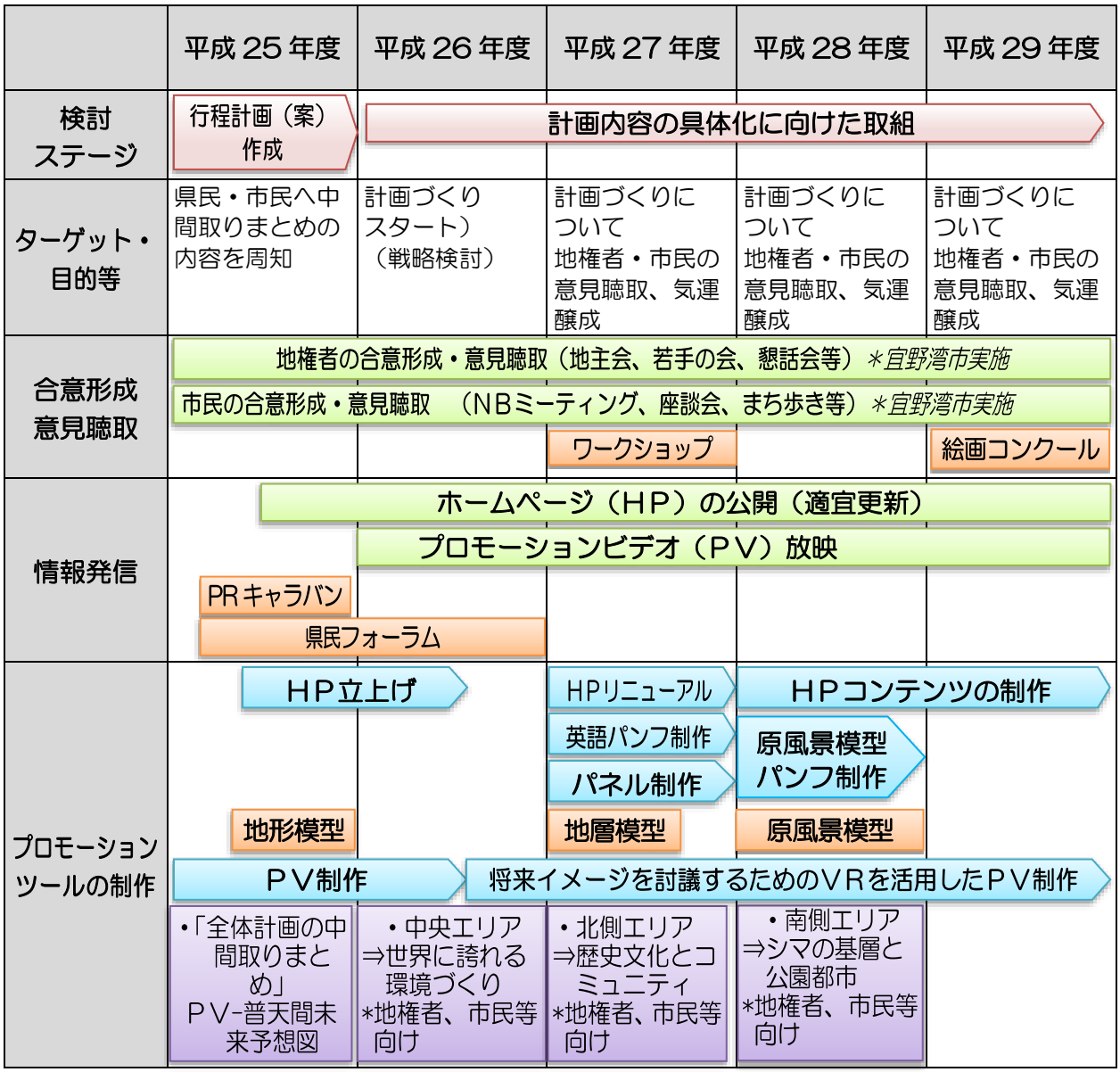
本章では、最初に、これまでの取組を整理のうえ、今後の合意形成・情報発信のあり方を検討した。

次に、今年度実施した県内向けイベント（「普天間未来予想図」パネル展）の開催概要・報告、また、今年度制作した「全体計画の中間取りまとめ（第２回）」の内容を伝えるPV、跡地の特性を伝える体験空間「バーチャル普天間未来シティ」、「全体計画の中間取りまとめ（第２回）（委員会案）」のパンフレットについて整理した。さらに、今年度実施したホームページの更新内容について整理した。

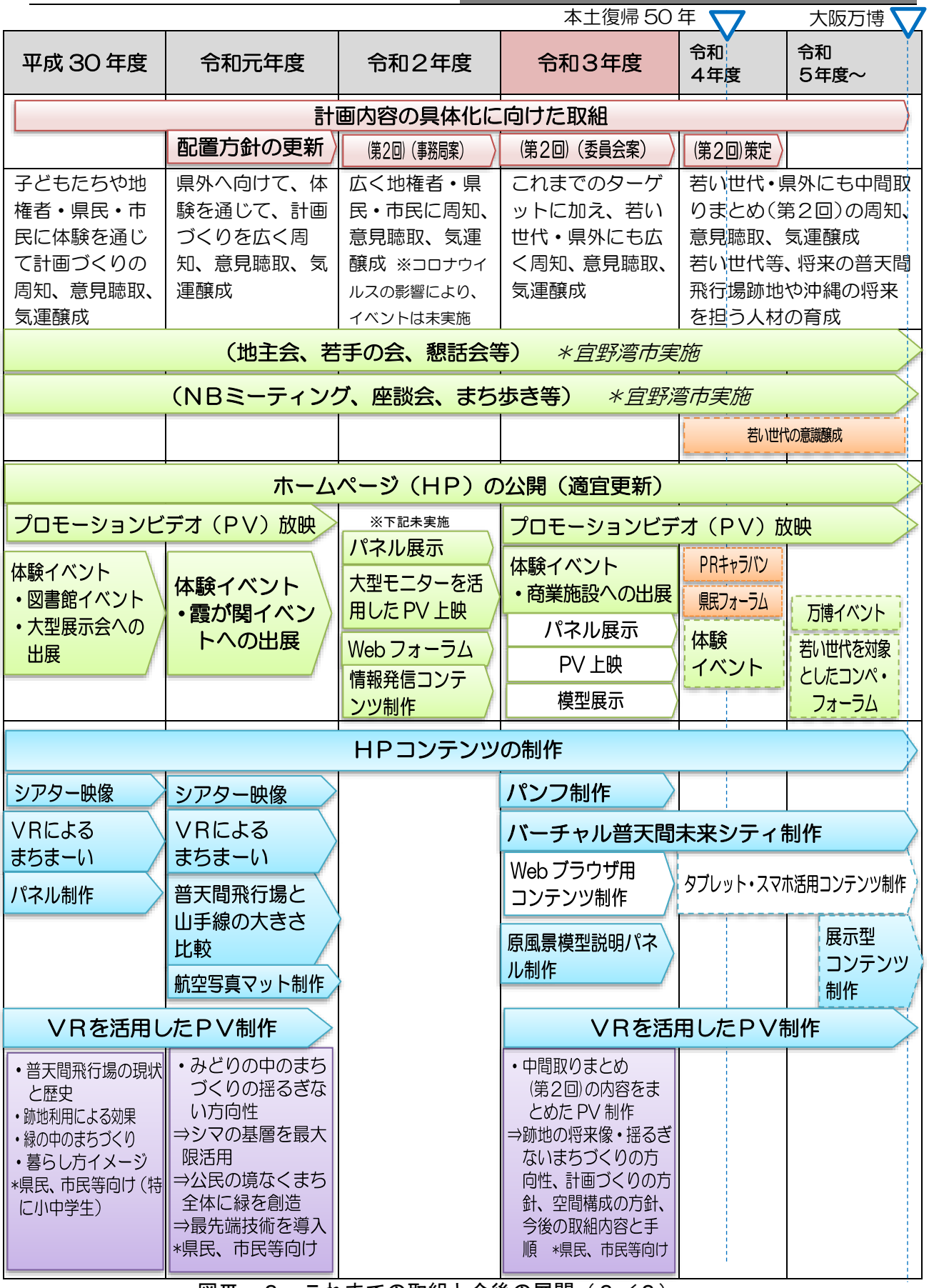
１．これまでの取組と今後の合意形成・情報発信のあり方検討

本節では、過年度の取組を踏まえた今後の展開、及び今後の情報発信・合意形成のあり方の検討を以下に整理した。

（１）これまでの取組と今後の展開



図Ⅲ－１　これまでの取組と今後の展開（１／２）



図Ⅲ－２　これまでの取組と今後の展開（２／２）

（２）今後の合意形成・情報発信のあり方検討

これまでの取組の概要、及び情報発信にかかる近年の動向を整理し、今後の合意形成・情報発信の新たな展開に向けて、そのあり方を検討した。

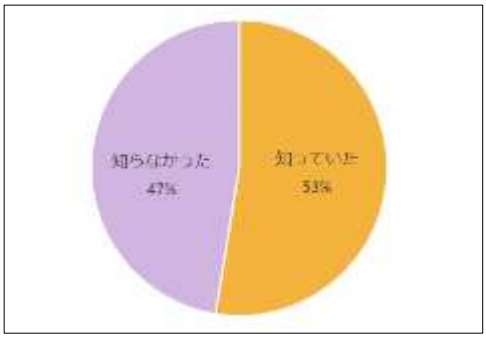
（２）－１　これまでの取組と社会的動向の整理

（２）－１－１　これまでの取組の整理

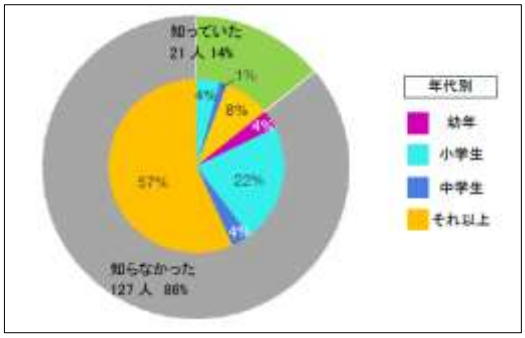
これまでの主たるターゲット：**県民・市民**
H30・R１体験イベント：**子ども・県外にも展開**

➡ 跡地利用に対する**認知度の低さ**を認識
（**県内認知度：約 53%、県外認知度：約 14%**）

認知度調査：普天間飛行場跡地で未来のまちを計画していることを知っていますか？



トータルリビングショウ/
平成 30 年度（サンプル数 99）



霞が関イベント/
令和元年度（サンプル数 148）

図Ⅲ－３　跡地の計画の認知度

中間取りまとめ（第２回）事務局案 ➡ 次世代を担う**若い世代の人材育成・情報発信の必要性**を確認

（２）－１－２　情報発信にかかる社会的動向

情報源の変化

・新聞・テレビ ＜ インターネット（趣味・娯楽など、自ら情報を得に行く場合）
・メディア接触時間：スマホ・タブレットが大きく増加し情報を得るメディアが多様化

図Ⅲ－４　情報を得るメディアの変化（１）

出典：平成 30 年度 情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書概要（令和元年９月、総務省）

図Ⅲ－５　情報を得るメディアの変化（２）

出典：メディア定点調査 2020（令和２年、
博報堂ＤＹメディアパートナーズ メディア環境研究所）
をもとに作成

（２）－２　今後の情報発信・合意形成のあり方検討

（２）－２－１　今後の情報発信・合意形成の方向性

これまでの取組と社会的動向の整理を踏まえ、今後の合意形成・情報発信の方向性を以下に整理した。

１．跡地利用の取組の**認知度向上** ２．**次世代をターゲット**とした人材育成	← **①デジタルツール**（スマホ・タブレットなど）**を活用**した情報発信の充実	・いつでも・どこでも・誰にでも（時間・場所・人に限定されず）情報発信が可能

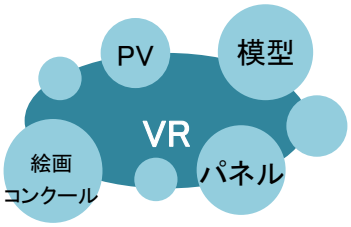
そのために必要なコト

１．人を呼ぶ**話題性・魅力** ２．**持続的に展開可能**な情報発信	①跡地の**情報プラットフォームの充実** 既存コンテンツ（ＶＲ・ＰＶ・模型・パネルなど）をデジタルツールで最大限活用

※ＨＰも情報プラットフォームとして機能しているが、アクセスを待っている状態であり積極的発信にはつながっていない

①　新たな情報発信の展開

既存ＶＲを中心に据えた情報プラットフォームの構築
・ＶＲ上の跡地でビジュアル的に、体験的に遊び・学ぶバーチャルな集いの場



② 新たな情報発信の展開イメージ

第１段階　情報プラットフォームの立ち上げ・プロジェクトの骨格の構築

・インターネット上でアクセス可能なＶＲを「バーチャル普天間未来シティ」とし、まちを訪れ、各施設に入ることで、バーチャル空間で展開される情報の閲覧・まちあるきを体験することができるベースを構築

第２段階　県民・市民・企業等を巻き込んだまちづくり活動の始動

・様々な人がバーチャル空間で交流・情報発信を行う。新しいまちをバーチャル上で疑似経験でき、まちの中でイベントや店舗（ＥＣサイト）などを展開し、不特定多数の人が集い、双方向の交流が可能な場の提供

第３段階　バーチャル普天間未来シティの拡充

・県民・市民・国内外の企業などの参画を拡充させ、デジタル社会の動向にあわせてバーチャル普天間未来シティの拡充を図る

・第２・第３段階への移行には、様々なステップを経て課題を解決することが必要となり時間を要することが想定されるが、第２・第３段階を視野に入れ、

まずは、第１段階のバーチャル普天間未来シティを展開

③ 第１段階における展開フロー（案）

第１段階における各年度の展開フロー（案）を整理した。今年度は、バーチャル普天間未来シティのベースを構築し、来年度以降に、認知度向上・次世代をターゲットとした人材育成に向け、スマホやタブレットのブラウザでの展開、イベント等と連動した展開を想定する。

また、デジタル技術の進展は、日進月歩であるため、必要に応じて社会の変化等に合わせた情報発信手法の検討を行う。

表Ⅲ-１　第１段階における展開フロー（案）

	R3(今)年度	R4(来)年度	R5(再来)年度
実施イメージ	**①今後のあり方検討** ⇒これまで制作したコンテンツを活用した新たな展開の検討 **②３Ｄ特性を活かした情報発信コンテンツの制作・再編集** ⇒これまで制作したコンテンツの整理・３Ｄの特性を活かした見せ方の検討 ⇒バーチャル空間で展開するコンテンツの制作・再編集 **③展示空間（バーチャル空間）の制作** ⇒情報発信コンテンツの閲覧/アクセスを可能にする展示空間の制作 ⇒２空間の制作 **④ＰＣブラウザ上での展開** ⇒来年度以降、スマホ・タブレットでアクセスできるように、今年度は準備段階としてＰＣブラウザ上で展開 **⑤宣伝用ＰＶの制作** ⇒来年度の公開に向けたＣＭとしてのＰＶ（15～30 秒）を制作	**⑥３Ｄ特性を活かした情報発信コンテンツの制作・再編集** ⇒３Ｄの特性を活かした見せ方の検討 ⇒バーチャル空間で展開するコンテンツの制作・再編集 **⑦展示空間（バーチャル空間）の制作** ⇒情報発信コンテンツの閲覧/アクセスを可能にする展示空間の制作 ⇒２空間の制作 **⑧スマホ・タブレットのブラウザでの展開** ⇒より多くの人へ情報を発信するために、スマホ・タブレットからアクセス可能な環境の整備 **⑨イベントなどと連動した展開** ⇒中間取りまとめ（第２回）の公表年として、イベントなどと連動した展開を想定	**⑩３Ｄ特性を活かした情報発信コンテンツの制作・再編集** ⇒３Ｄの特性を活かした見せ方の検討 ⇒バーチャル空間で展開するコンテンツの制作・再編集 **⑪展示空間（バーチャル空間）の制作** ⇒情報発信コンテンツの閲覧/アクセスを可能にする展示空間の制作 ⇒２空間の制作 **⑫イベントなどと連動した展開** ⇒イベントなどと連動した展開を想定 **⑬今後の情報発信手法の検討** ⇒アプリなどでの展開検討 ⇒第２段階への移行検討（第２段階移行に向けての課題などの整理） ⇒デジタル技術の進展・社会の変化に合わせた情報発信手法の検討

２．既存ツールを活用した県内向けイベント

本節では、これまでの過年度成果、合意形成・情報発信ツール等を活用した跡地利用計画に関するパネル展を開催し、普天間飛行場跡地利用についての合意形成・情報発信を行った。

（１）「普天間未来予想図」パネル展

不特定多数の県民・市民が利用する県内の商業施設において、キャラバン巡回展示を開催することで、普天間飛行場跡地利用に向けての取組を、県民に広く周知し、返還後のまちづくりに関する気運醸成を図ることを目的とする。また、内閣府沖縄総合事務局が主催した「米軍施設返還跡地まちづくりパネル展」のパネルを活用し展示することで、パネル展の内容の充実化を図る。また、来場者の興味・関心に繋げる仕掛けとして、跡地一体の昔の風景を復元した原風景模型を展示することで、これまで跡地利用に関する情報に触れる機会の少なかった県民・市民の認知度向上と、今後の展望に夢を抱いてもらう機会を創出する。

併せて、アンケート調査（アンケート用紙、Web アンケート）を実施することにより、広く県民の意見を聴取する。

（１）－１　開催概要

開催日時及び場所は以下のとおりである。

表Ⅲ-２　開催日時・場所

日時	場所	備考
12 月 4 日（土）～12 月 5 日（日）【10：00～20：00】	サンエー那覇メインプレイス（３階エントランス）	
12 月 11 日（土）～12 月 12 日（日）【10：00～20：00】	イオンモール沖縄ライカム（２階グランドスクエア東広場）	原風景模型を展示
12 月 18 日（土）～12 月 19 日（日）【10：00～20：00】	サンエー宜野湾コンベンションシティ（３階エントランス）	

（１）－２　展示内容

普天間飛行場跡地利用計画に関するパネルを展示するとともに、跡地利用について身近に感じてもらえるよう、内閣府沖縄総合事務局主催「米軍施設返還跡地まちづくりパネル展」のパネルを活用し、これまでの跡地利用に伴う事例を紹介することで、今後返還が予定されている、跡地利用に向けて意識醸成に繋がる展示内容とした。

（1）－2－1　展示のストーリー

米軍施設返還跡地利用の概要

これまでに返還された跡地の利用状況を紹介するとともに、今後返還が予定されている、県内の返還跡地・返還合意施設を知ってもらう。

返還跡地に誕生したまちの紹介

跡地の概要、沿革、今昔の写真を用いて跡地利用の事例を紹介し、これまでの移り変わりを伝える。

基地跡地の未来に関する懇親会について

今後返還が予定されている普天間飛行場、牧港補給地区等の在日米軍施設・区域の跡地利用、その核となる施設・機能の検討内容について知ってもらう。

普天間飛行場跡地利用計画の概要

今後返還が予定されている普天間飛行場について、過年度作成したパネル「普天間飛行場跡地利用計画（中間取りまとめ）」を活用し、具体的な計画内容を理解してもらう。

普天間シアター映像の上映

普天間飛行場の未来のまちのイメージを上映（7分48秒）

普天間飛行場跡地に潜在する資源の魅力（シマの基層）

普天間飛行場及び周辺における自然環境自然・歴史文化資源を展示し、普天間飛行場跡地に潜在する資源の魅力を知ってもらう。

原風景模型の展示

跡地利用による経済効果と緑の中のまちづくり

普天間飛行場がまちになることでもたらす経済効果や、緑が人や環境にもたらす効果を示すことで、跡地利用の重要性と未来の普天間飛行場跡地に夢を抱いてもらう。

【新しい沖縄のライフスタイル】

・新しい沖縄のライフスタイルを紹介することで返還後のライフスタイルを具体的にイメージしてもらう。

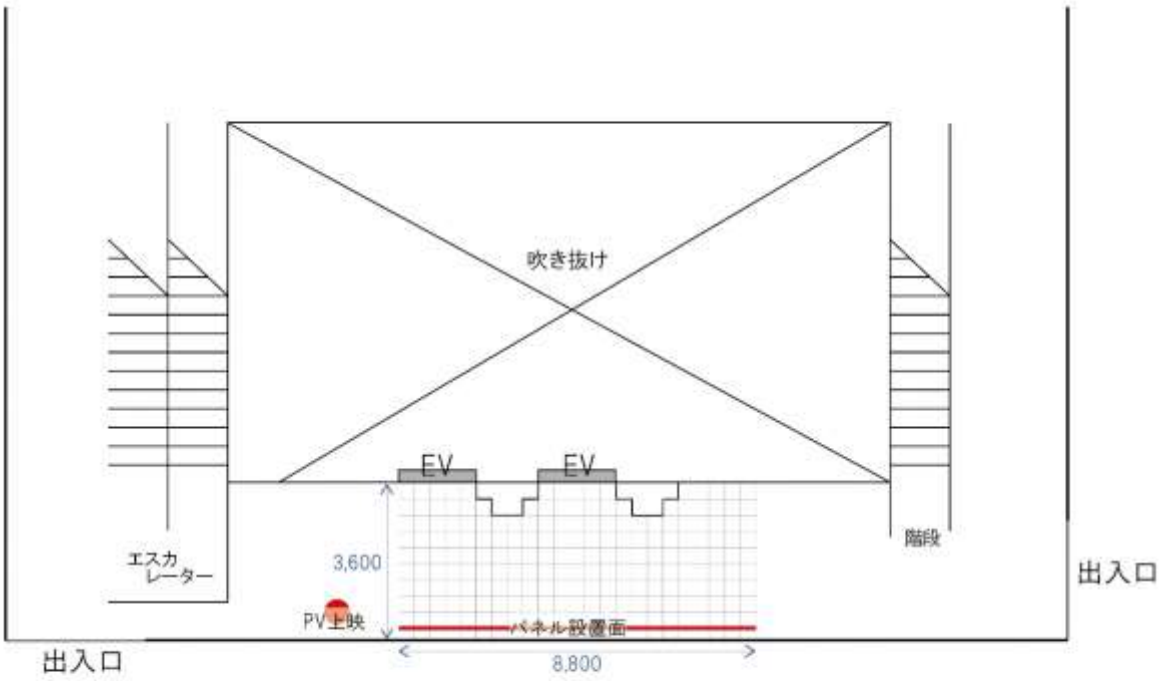
エコバック･風船の配布

・アンケート回答者にノベルティグッズ（エコバック）を配布

アンケートによる意見聴取

（1）－2－2 ブースレイアウト

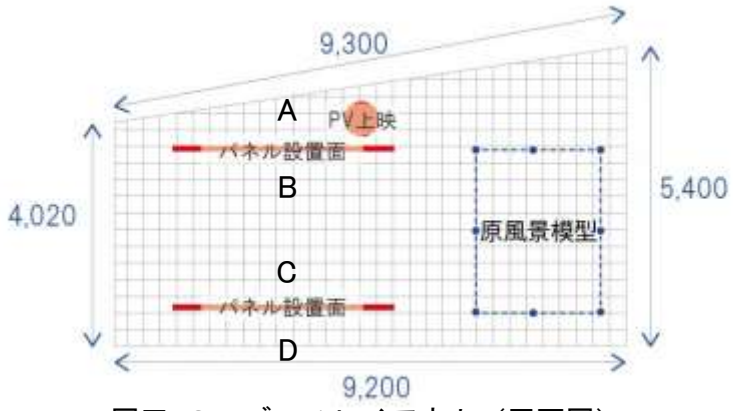
① サンエー那覇メインプレイス（3階エントランス）



図Ⅲ－6 ブースレイアウト（平面図）

図Ⅲ－7 ブースレイアウト（立面図）

②イオンモール沖縄ライカム（２階グランドスクエア東広場）

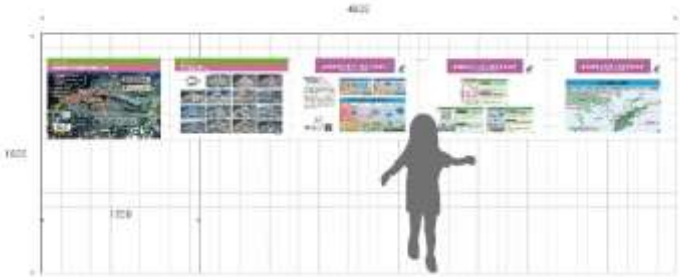


図Ⅲ−８　ブースレイアウト（平面図）

A

B

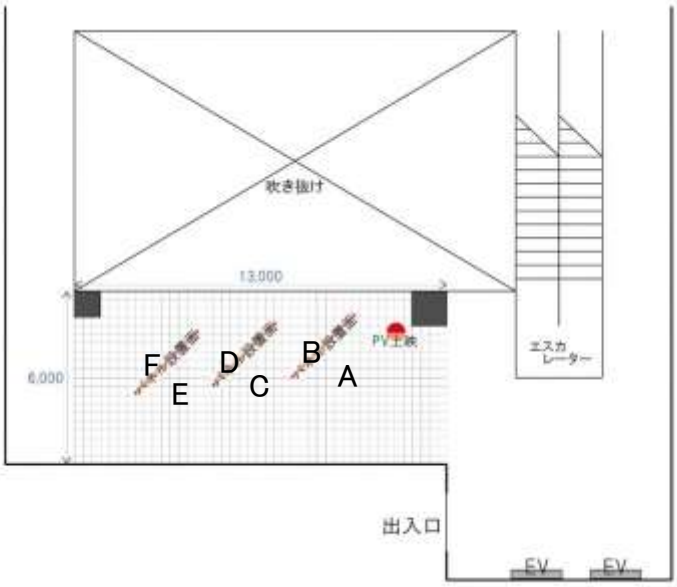
C



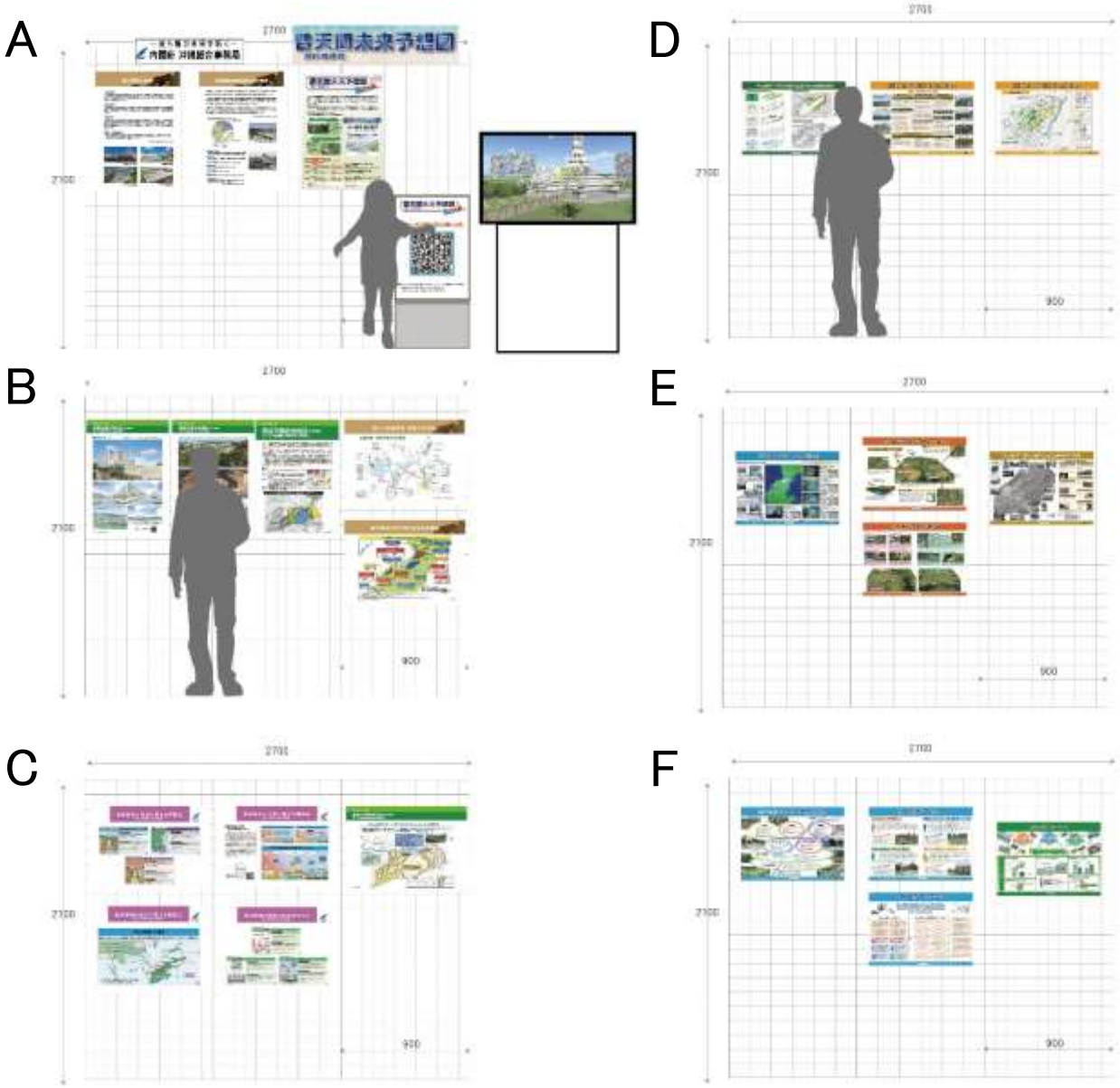
D

図Ⅲ−９　ブースレイアウト（立面図）

③サンエー宜野湾コンベンションシティ（３階エントランス）



図Ⅲ-10　ブースレイアウト（平面図）



図Ⅲ-11　ブースレイアウト（立面図）

（１）－２－３　周知方法（県・市ホームページによる周知）

図Ⅲ-12　告知チラシ

（２）開催報告

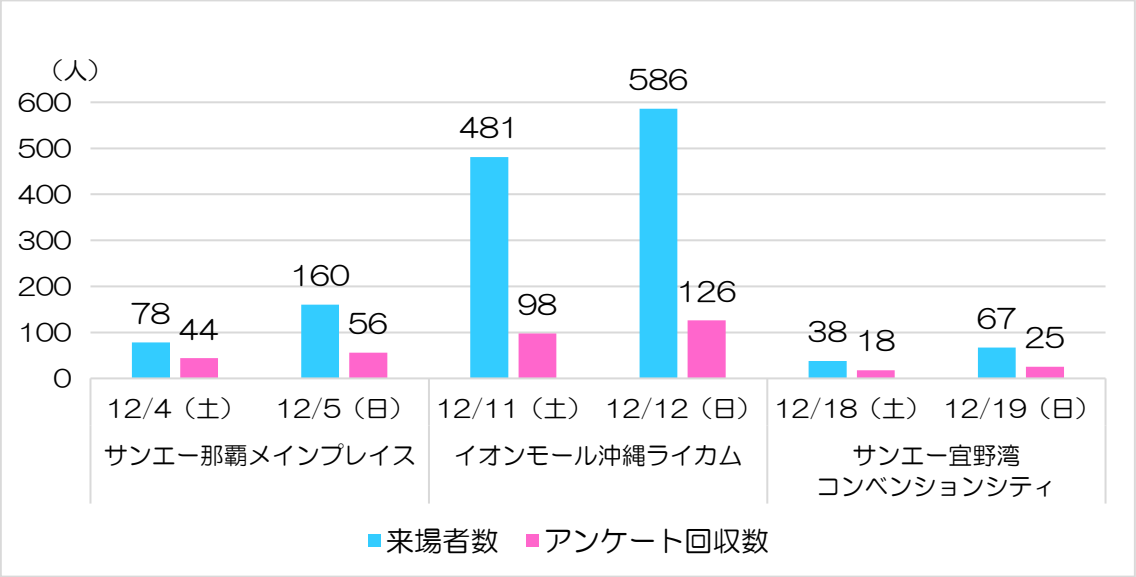
（２）－１　来場者数及び実施の様子

6 日間の展示会期間中の合計来場者数は 1,410 人となっており、アンケート回収数は 367 票であった。

イオンモール沖縄ライカムでは、多くの人流がある場所での展示ができたことに加えて、通行人の目を引く「原風景模型」を設置したことが、閲覧者数の増加につながったと考えられる。

表Ⅲ-３　開催場所・日別来場者数及びアンケート回収状況

開催場所	①サンエー那覇メインプレイス		②イオンモール沖縄ライカム		②サンエー宜野湾コンベンションシティ		合計
	12/4(土)	12/5(日)	12/11(土)	12/12(日)	12/18(土)	12/19(日)	
来場者数	78	160	481	586	38	67	1,410
アンケート回収数	44	56	98	126	18	25	367
回収率	56.4%	35%	20.4%	21.5%	47.4%	37.3%	26.0%



①第1回

【日時】12 月 4 日（土）～12 月 5 日（日）　10：00～20：00

【場所】サンエー那覇メインプレイス＿３階エントランス

②第2回

【日時】12 月 11 日（土）～12 月 12 日（日）　10：00～20：00

【場所】イオンモール沖縄ライカム＿2 階グランドスクエア東広場

③第3回

【日時】12 月 18 日（土）～12 月 19 日（日）　10：00～20：00

【場所】サンエー宜野湾コンベンションシティ＿３階エントランス

（2）－2　アンケート結果

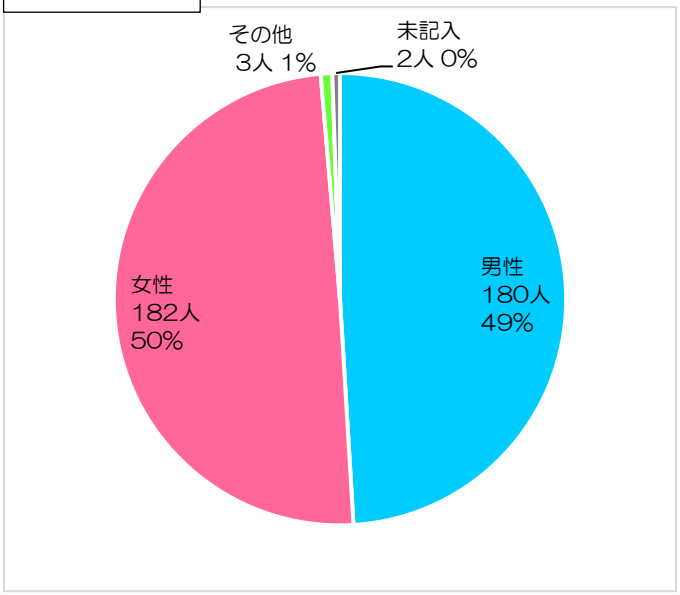
属性について

設問 1:性別　　設問 2:年齢　　設問 3:居住地

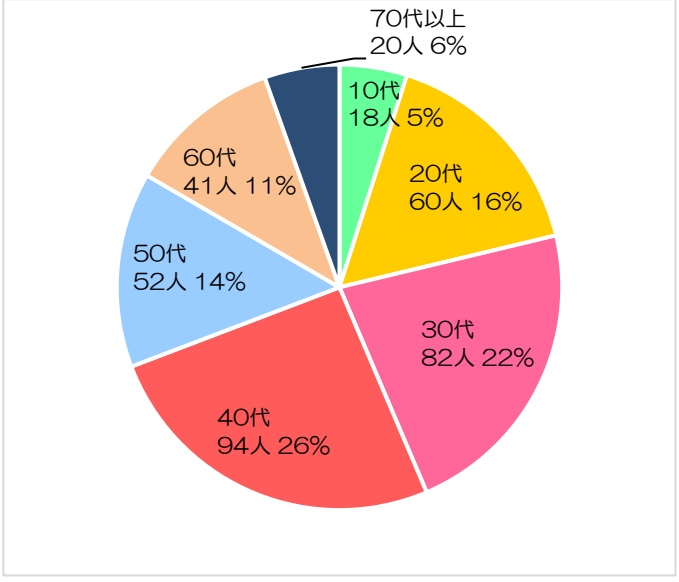
年齢については、40 代が 26%と最も多く、次いで 30 代 22%、20 代 16%の順となっており、大型ショッピングセンターでの開催ということもあり、比較的若い世代への意見聴取ができたと考えられる。

また、巡回（那覇市、北中城村、宜野湾市）でのパネル展としたことで、地元の方々をはじめ、広範囲に居住している県民へと情報発信ができたと考える。

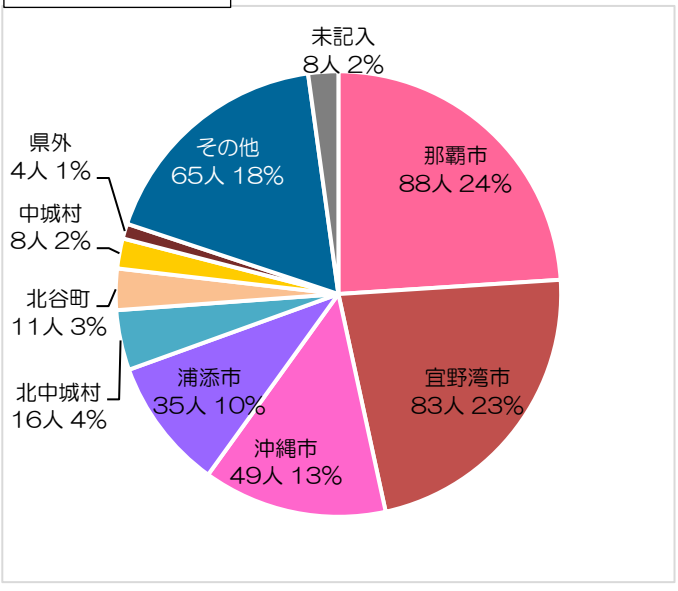
設問 1:性別



設問2:年齢



設問3:居住地



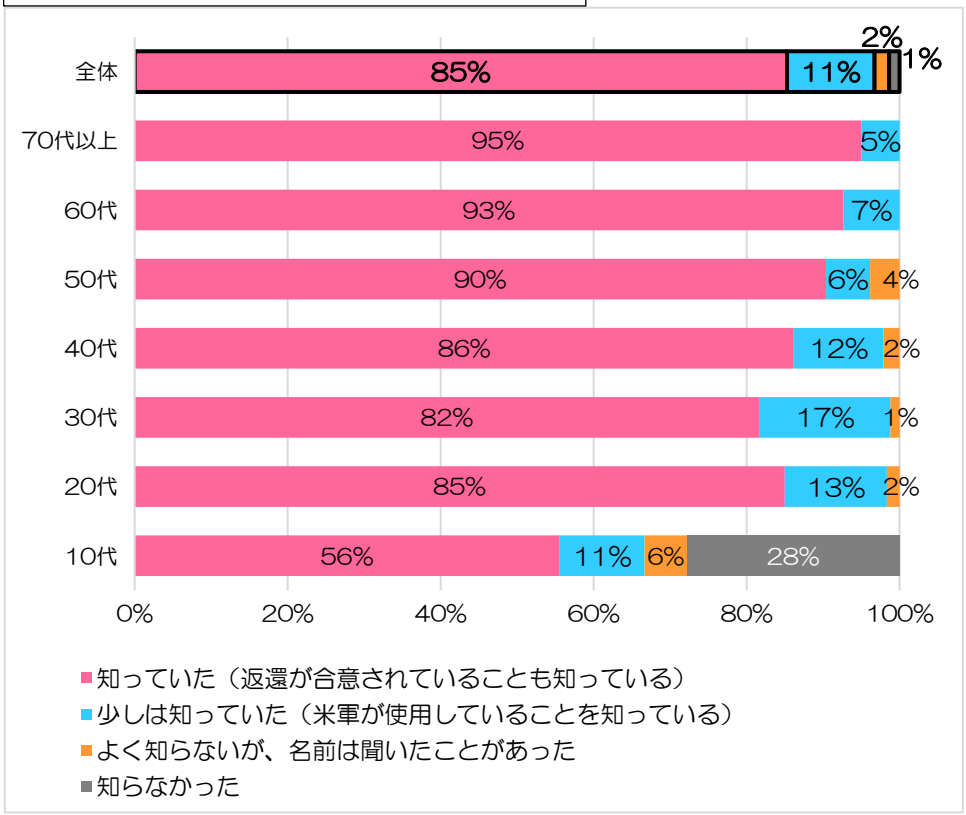
普天間飛行場に関する認知度について

設問４：普天間飛行場を知っていましたか？
設問５：跡地利用計画策定に向けた検討が行われていることを知っていましたか？

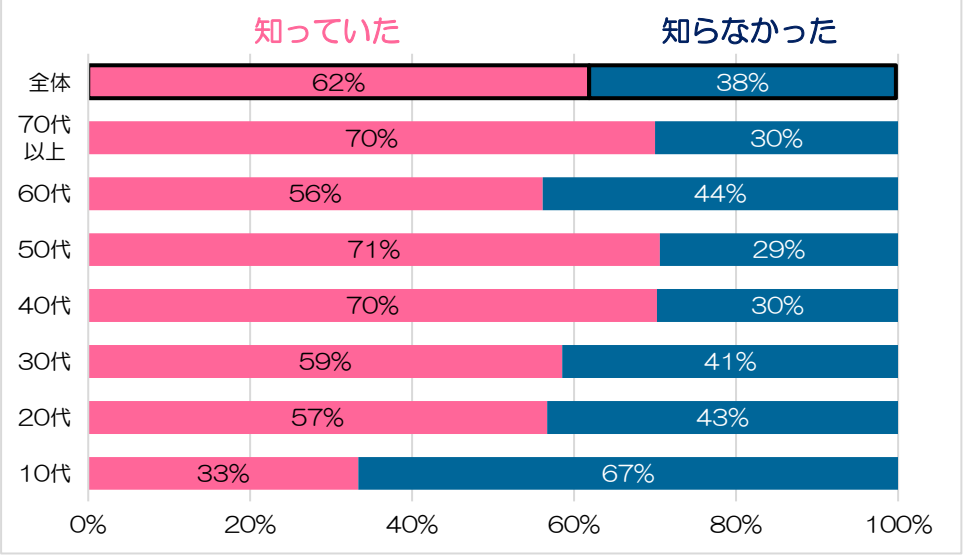
普天間飛行場の「返還が合意されていることを知っている」人が最も多く 85%となっている一方、沖縄県と宜野湾市が共同で跡地利用計画策定に向けた検討を行っていることを「知っていた」人は 62%にとどまっていた。

今後も引き続き、県民に広く周知を行っていく必要があると考えられる。

設問 4:普天間飛行場を知っていましたか？



設問5:跡地利用計画策定に向けた検討が行われていることを知っていましたか？

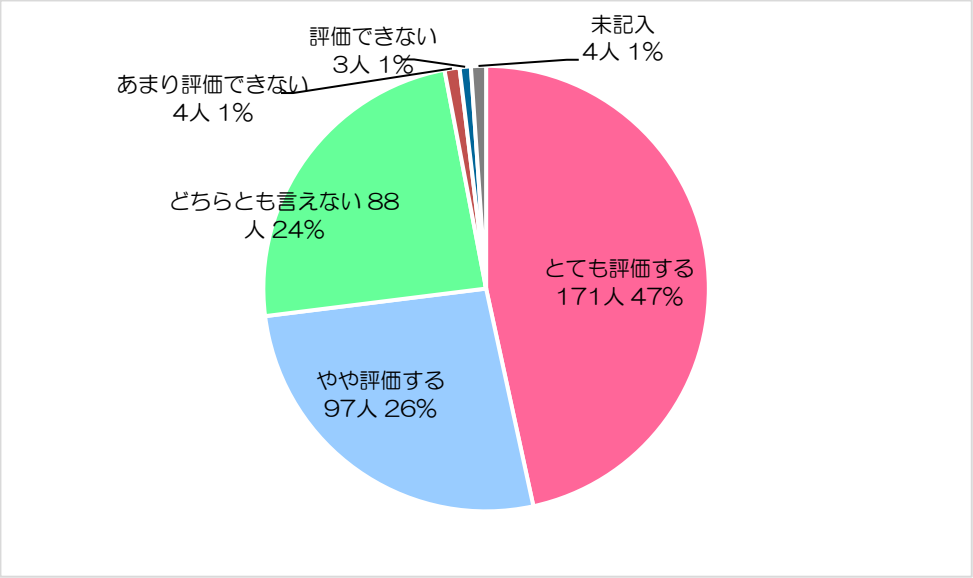


跡地利用に関する取組への評価について

設問 6：跡地利用に関する取組についてどう思いますか？

跡地利用に関する取組への評価としては、「とても評価する」が 47%と最も多かった。「評価する（とても評価する・やや評価する）」と回答した人は 73%、「評価しない（あまり評価できない・評価できない）」と回答した人は 2%であった。

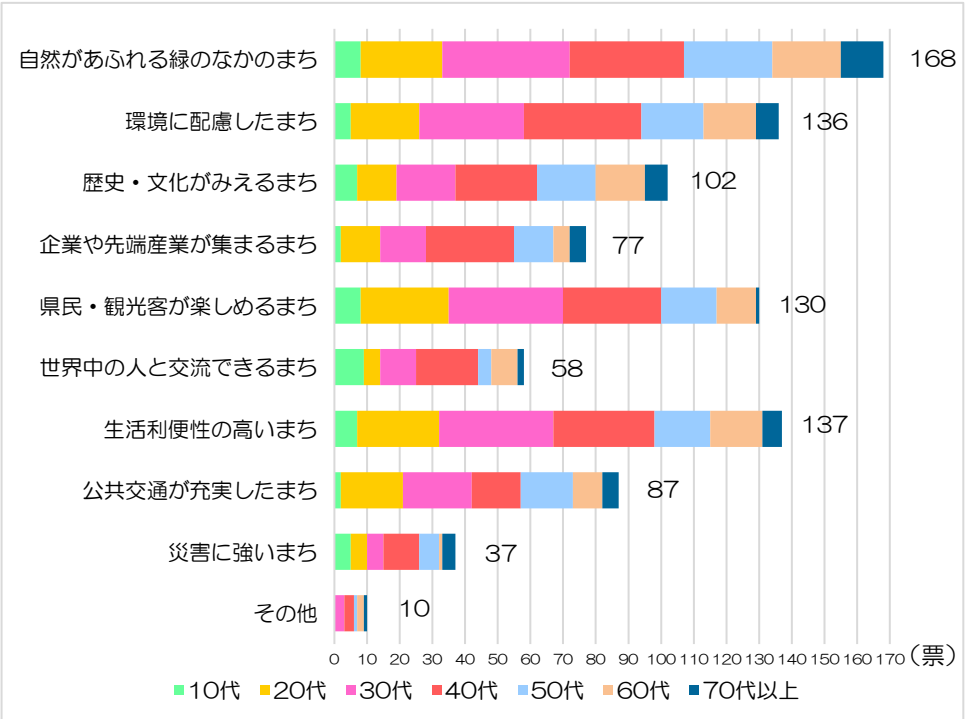
自由意見の中には「緑豊かで住み続けられる都市にしてほしい」、「ホームページの存在は知らなかった。広報活動を頑張るべき」という意見も挙がっていた。



期待する跡地のまち像について

設問 7：跡地がどんなまちになったらよいと思いますか？（3 つまで選択）

「自然があふれる緑のなかのまち」が 168 票（18%）と最も多く、次いで「生活利便性の高いまち」137 票（15%）、「環境に配慮したまち」136 票（14%）となっており、自然環境を大事にしたまちづくりを求める回答者が多かった。

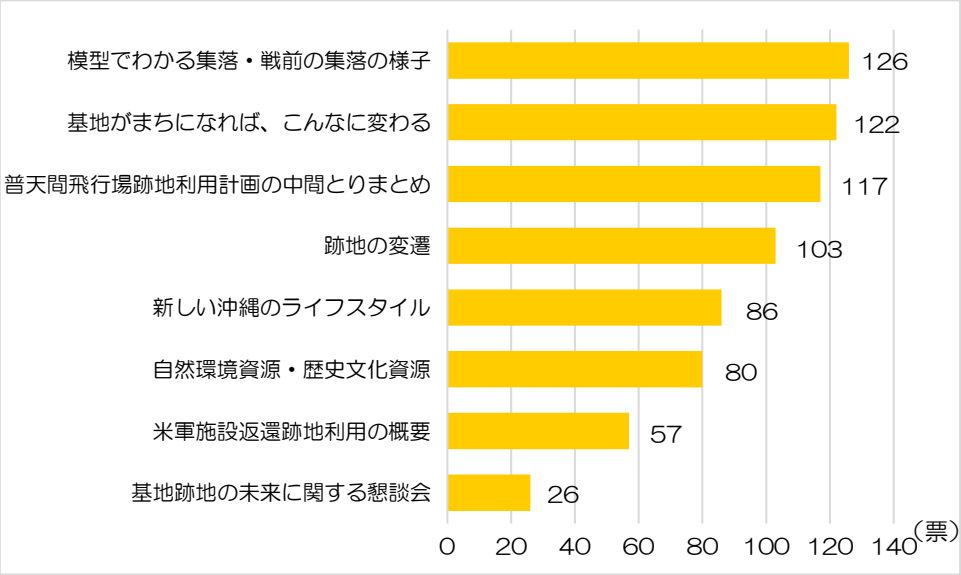


期待する跡地のまち像について

設問８：どのパネルに関心がありましたか？（3 つまで選択）

関心のあったパネルについては、「模型で分かる戦前の集落の様子」が 126 票（18%）と最も多く、次いで「基地がまちになれば、こんなに変わる」122 票（17%）、「普天間飛行場跡地利用計画（中間取りまとめ）」117 票（16%）となっている。

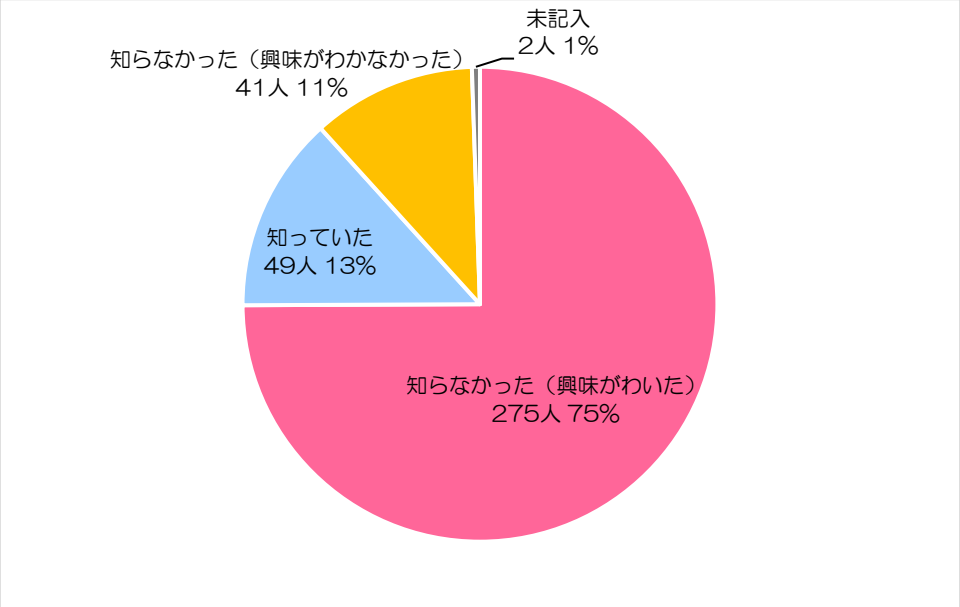
原風景模型に関するパネルや配置方針図を掲載したパネル、跡地利用の変遷を写真で紹介しているパネル（沖縄総合事務局より借用）など、ビジュアル的で分かりやすいパネルへの関心が高いと考えられる。



HP「普天間未来予想図」の認知度について

設問９：跡地利用に関する情報を発信している HP があることを知っていましたか？

ホームページの存在を「知っていた人」は 13%と低い割合であった。知らなかったと回答している人のうち、「興味がわいた」と回答している人が 75%であることから、今後、HP の存在を広く発信することで、HP の閲覧者増が期待できると考える。

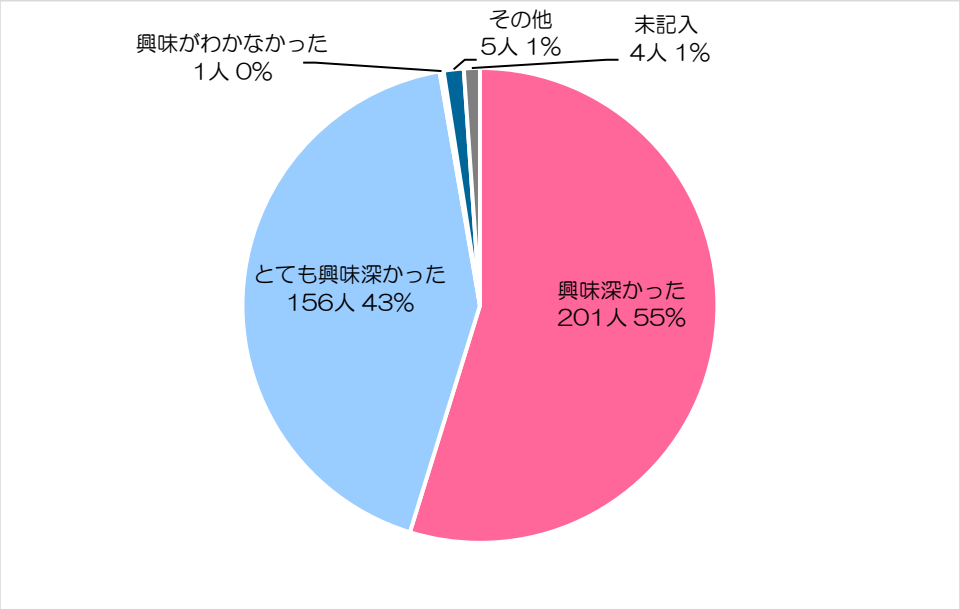


パネル展の感想について

設問 10：今回のパネル展の感想をお聞かせください。

パネル展の感想については、「興味深かった」が 55%と最も多かった。興味を持った人（とても興味深かった・興味深かった）が全体の 98%を占めていた。

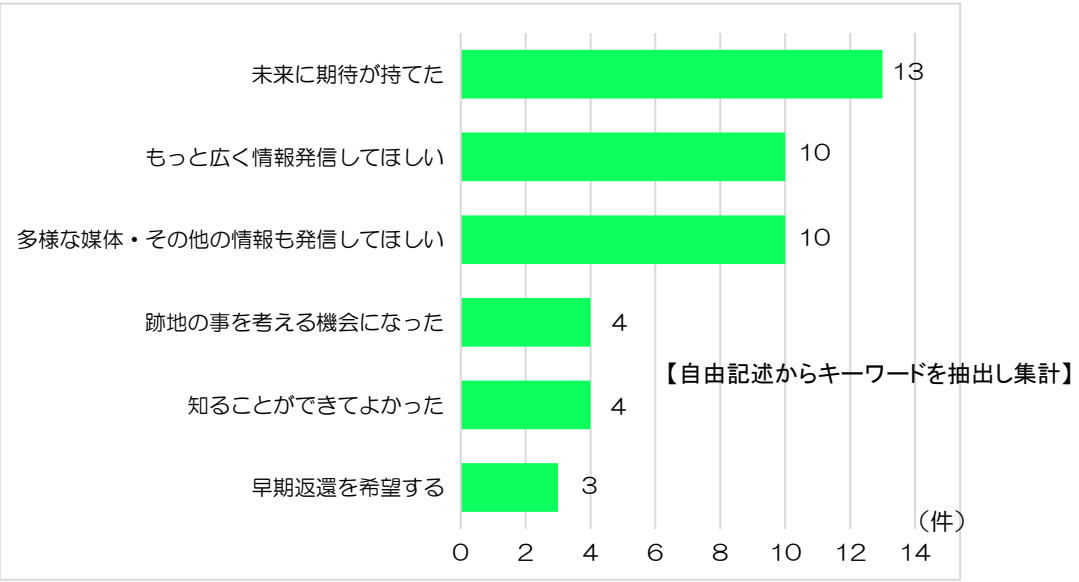
一方、その他の意見として「パネルの配置を（面白味があるように）工夫した方がよい」や「もう少し分かりやすい方がよい」等の意見が挙がっていた。



その他、ご意見・ご感想

本パネル展や普天間飛行場跡地利用計画に関するご意見・ご感想等

「未来に期待が持てた」、「もっと広く情報発信してほしい」、「多様な媒体・その他の情報も発信してほしい」などの意見が多かった。普天間飛行場や跡地利用についての興味・関心を引くきっかけになったが、情報発信のあり方を工夫してほしいとの声も多かった。



＼ あなたの声が沖縄の未来をつくります。ご意見をください。 ／

普天間飛行場跡地 未来予想図

あなたについて教えてください。

Q1. 性別

① 男性　② 女性　③ その他

Q2. 年齢

① 10 代　② 20 代　③ 30 代　④ 40 代
⑤ 50 代　⑥ 60 代　⑦ 70 代　⑧ 80 代以上

Q3. 居住地

① 那覇市　② 浦添市　③ 宜野湾市　④ 北谷町　⑤ 中城村
⑥ 北中城村　⑦ 沖縄市　⑧ 県外　⑨ その他（　　）

普天間飛行場跡地についてのご意見をお聞かせください。

Q4. 普天間飛行場を知っていましたか？

① 知っていた（返還が合意されていることも知っている）
② 少しは知っていた（米軍が使用していることを知っている）
③ よく知らないが、名前は聞いたことがあった
④ 知らなかった

Q5. 返還が予定されている普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた検討が行われていることを知っていましたか？

① 知っていた　② 知らなかった

Q6. 跡地利用に関する取組についてどう思いますか？

① とても評価する　② やや評価する　③ どちらとも言えない
④ あまり評価できない　⑤ 評価できない

Q7. 普天間飛行場跡地がどんなまちになったらよいと思いますか？［3 つまで選択］

① 自然があふれる緑のなかのまち　② 環境に配慮したまち
③ 歴史・文化がみえるまち　④ 企業や先端産業が集まるまち
⑤ 県民・観光客が楽しめるまち　⑥ 世界中の人と交流できるまち
⑦ 生活利便性の高いまち　⑧ 公共交通が充実したまち
⑨ 災害に強いまち　⑩その他（　　）

Q8. どのパネルに関心がありましたか？［3 つまで選択］

① 米軍施設返還跡地利用の概要（パネル 1 ～ 3）
② 跡地の変遷（パネル 4 ～ 7）
③ 基地跡地の未来に関する懇談会（パネル 8 ～ 9）
④ 普天間飛行場跡地利用計画の中間とりまとめ（パネル 10 ～ 11）
⑤ 自然環境資源・歴史文化資源（パネル 12 ～ 13）
⑥ 模型でわかる集落・戦前の集落の様子（パネル 14）
⑦ 基地がまちになれば、こんなに変わる（パネル 15 ～ 16）
⑧ 新しい沖縄のライフスタイル（パネル 17 ～ 18）

Q9. 普天間飛行場の跡地利用計画に関する情報を発信している HP「普天間未来予想図」があることを知っていましたか？

① 知っていた　② 知らなかった（興味がわいた）
③ 知らなかった（興味がわかなかった）

Q10. 今回のパネル展の感想をお聞かせください。

① とても興味深かった　② 興味深かった
③ 興味がわかなかった　④ その他（　　）

他にもご意見や感想等ありましたら裏面にご記入お願いします。

◎ご協力ありがとうございました。ご協力頂いた方には、マイバッグを進呈しております。記入が完了した方は、お近くのスタッフまでこちらのシートをお渡しください。

図Ⅲ-13　アンケート用紙

（3）まとめと今後の課題

（3）－1　来場者の反応

・沖縄県と宜野湾市が普天間飛行場跡地利用に向けた計画づくりに取り組んでいることに対して、多くの来場者が関心を示した。
・不特定多数の県民・市民が利用する商業施設でパネル展を開催したことから、多くの方から意見聴取ができた。子ども連れの来場者も多く、普天間未来予想図の文言をプリントした風船に興味・関心を示す子ども達に配布、想定よりも子ども連れの来場者が多かった為、追加で風船を準備するほどであった。
・返還時期に関する質問や、原風景模型を展示した商業施設では、当時の集落の様子や生活様式に関する質問をする来場者が多くみられた。

（3）－2　意見聴取について

・アンケートは紙媒体とQRコード読取り（Webアンケート）を併用して行った。パネルと同様にアンケート用QRコードを掲載していたものの、自発的にQRコードを読み取りアンケートに回答する来場者は少なく、アクセスの手間がない紙媒体でのアンケートを望む来場者が多かった。また、タブレットを使用したスタッフによる聞き取り形式での意見聴取も行ったが、対応できる来場者数に限りがあり、多くの意見を聴取するといった点では効率が低かったと考えられる。
・以上のことから、アンケート調査においては、来場者が気軽に応じることのできる調査方法であり、回答が容易な設問内容、設問数の設定が重要であると考える。
・商業施設にて開催したことから来場者数は多く、特に原風景模型を展示した商業施設においては模型の前で足を止める来場者が多かったこともあり、多くの県民・市民から意見を聴取することができた。

（3）－3　内容について

・普天間飛行場の未来のまちのイメージPVを見ている方からは、イメージPVのように緑豊かなまちが実現することを望む声が多かった。アンケートにおいても「自然があふれる緑の中のまち」や「環境に配慮したまち」等、自然環境を大事にしたまちづくりを求める意見が多くみられた。
・原風景模型を展示した商業施設においては、来場者の目を引くアイテムとなり、高い集客に繋がったと考えられる。また、内閣府沖縄総合事務局主催「米軍施設返還跡地まちづくりパネル展」のパネルを活用し、これまでの跡地利用に伴う事例や跡地の変遷を写真で紹介したことも、来場者の興味・関心に繋がったと考えられる。

（3）－4　今後の課題

これまでの情報発信イベントでは、他のイベントと連携した開催や普天間飛行場跡地利用計画に関心のある人々がターゲットとなっていたが、今回、不特定多数の県民・市民が利用する県内の商業施設でパネル展を開催することで、広く県民・市民に対して、普天間飛行場跡地利用計画に関する情報発信が可能となった。

本イベントでは、情報発信のあり方を工夫する必要があるとの意見を多く頂いた。特に「パネルの内容は文字を減らし写真を多用した方が良い」、「情報発信ツールの活用（SNS等）」との意見が多く、ビジュアル的な情報発信を行うとともに、今後の跡地利用を担う若い世代に対して有効な情報発信のあり方を検討する必要がある。

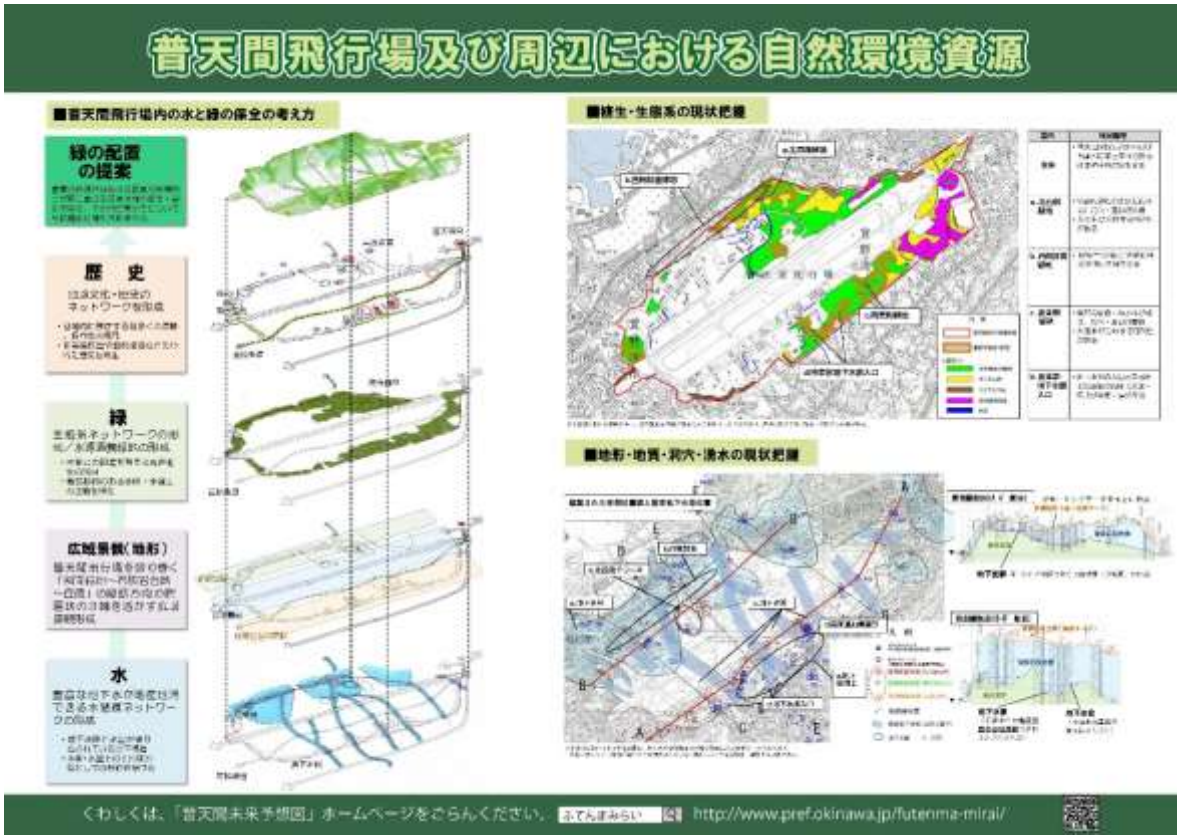
（４）展示物

（４）－１　普天間未来予想図パネル（実寸サイズ：Ｂ２版）

①パネル「普天間飛行場跡地利用計画の中間取りまとめ」

②パネル「普天間飛行場跡地利用計画の中間取りまとめ」

③パネル「普天間飛行場及び周辺における自然環境資源」



④パネル「普天間飛行場及び周辺における歴史文化資源

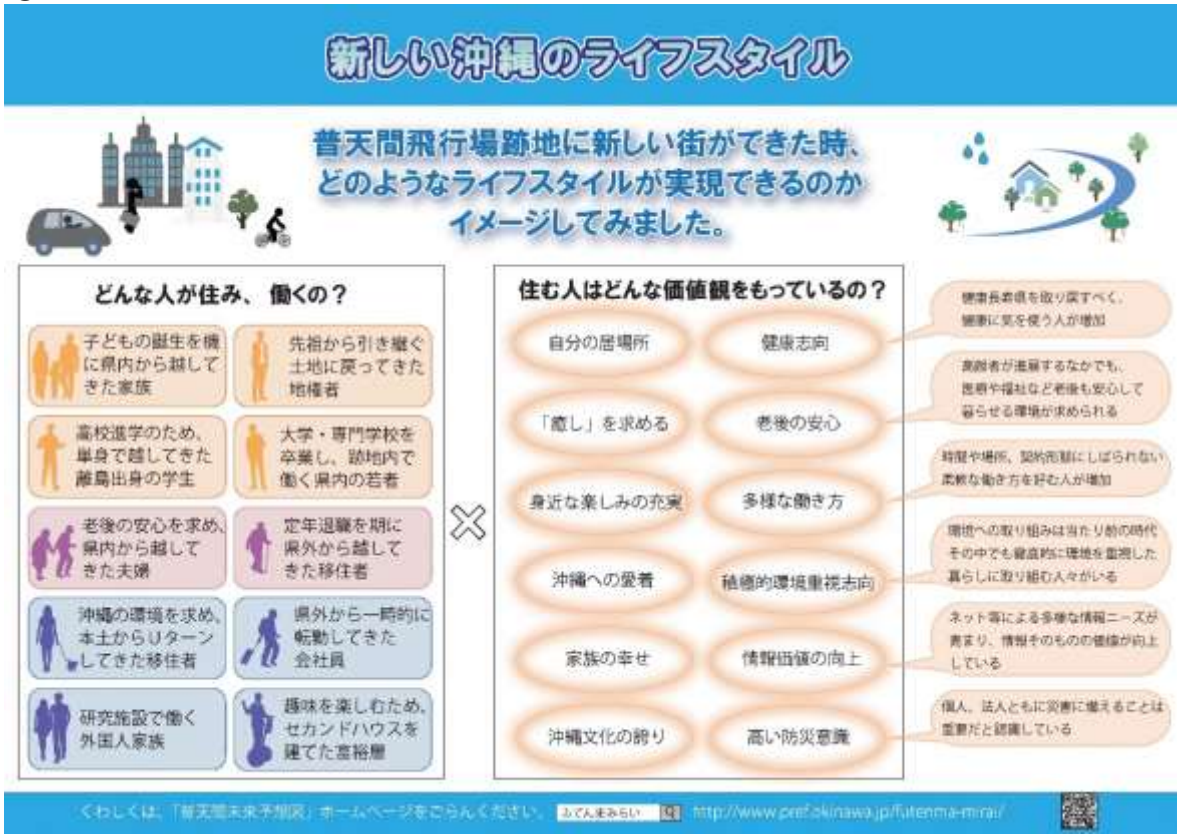
⑤パネル「模型でわかる地形と緑を活かした集落のようす」

⑥パネル「模型でわかる戦前の集落の様子」

⑦パネル「基地がまちになれば、こんなに変わる！」

⑧パネル５「未来のまちのキーボード」

⑨パネル「新しい沖縄のライフスタイル」



⑩パネル「新しい沖縄のライフスタイル」

⑪パネル「新しい沖縄のライフスタイルを支える機能」

⑫パネル「普天間飛行場一帯のむかしの風景」

３．既存コンテンツ（VR、PV、イベント展示パネル等）を活用した情報発信ツールの作成

本節では、「全体計画の中間取りまとめ（第２回）」の内容を分かりやすく示すコンテンツであるプロモーションビデオ（ＰＶ）、及び、より積極的な情報発信を可能にする情報プラットフォームとしてのバーチャル普天間未来シティの制作にあたっての検討を行った。

（１）プロモーションビデオ（ＰＶ）の制作

（１）－１　ＰＶ制作の意義と目的

（１）－１－１　意義と目的

普天間飛行場跡地利用における将来イメージの検討内容をプロモーションビデオとして制作し、県民、市民、地権者等に向けて情報発信を行い、跡地利用の気運醸成ツールとして活用するとともに意見聴取ツールとしても活用することを目的とする。

（１）－１－２　ＰＶの活用方法

ＰＶは多くの県民、市民、地権者等へ情報発信することが重要と考え、地元の字ごとの郷友会、地主会、普天間飛行場の跡地利用を考える若手の会、ねたてのまちベースミーティングなど積極的に活動されている団体の会合等で見ていただく機会を設けて、意見を聴取する。また、県のホームページ内の動画チャンネルやイベント等で公開することで、さらに広く県民、市民、地権者等のみなさんに見ていただくとともに、普天間飛行場跡地の計画づくりに関心を持ってもらう。

（１）－１－３　今年度のＰＶ制作の視点

来年度策定・公表予定の「全体計画の中間取りまとめ（第２回）」の内容を伝えるＰＶは、過年度に制作したＰＶの内容を踏まえ、以下の視点で制作した。

H24年度　**全体計画の中間取りまとめ（沖縄県・宜野湾市／H25.3）**

・跡地利用の目標・跡地利用の実現に向けた取組を位置づけ
・ネットワーク型の公園緑地を中心とした配置方針図を作成

H25年度　普天間未来予想図 飛行場跡地

「全体計画の中間取りまとめ」の策定経緯・内容をまとめたPVを制作し情報発

	ポイント
H26年度（中央エリア）	跡地の特性を活かし、「沖縄の風土」、「沖縄らしさ」、「沖縄振興の舞台」、「自然エネルギーの活用」に考慮した世界に誇れる環境づくり
H27年度（北側エリア）	歴史・文化を活かしたコミュニティの創生、沖縄の風土を利用した自然エネルギーの活用、西普天間住宅地区跡地の沖縄健康医療拠点との連携
H28年度（南側エリア）	風土に根ざした琉球の文化（シマの基層）を踏まえた土地利用計画、公共交通のクロスポイントに公園都市における振興交流拠点を形成
H29年度（緑の中のまち）	緑がもたらす効果として、暮らし・働き・訪れたくなるまちが形成され、跡地の価値向上につながるイメージ
R1年度（みどりの中のまちづくり）	シマの基層を最大限活用しながら最先端技術を導入し、公民の枠を超えて、まち全体で緑を創造する揺るぎないまちづくりの方向性

・来年度策定・公表予定である「全体計画の中間取りまとめ（第２回）」の内容を示し、かつ主要なポイントを強調し、県民、市民、地権者等の気運醸成を図る。

R4年度公表　全体計画の中間取りまとめ（第２回）（沖縄県・宜野湾市／R4）

・新たに跡地の将来像・揺るぎないまちづくりの方向性を位置づけ

世界に誇れる優れた環境の創造　～みどりの中のまちづくり～

・新たな価値を生み出す公民一体となった大規模公園エリアを中核とした配置方針図に更新

○「全体計画の中間取りまとめ」（第２回）PV制作の考え方

普天間未来予想図 2.0
飛行場跡地

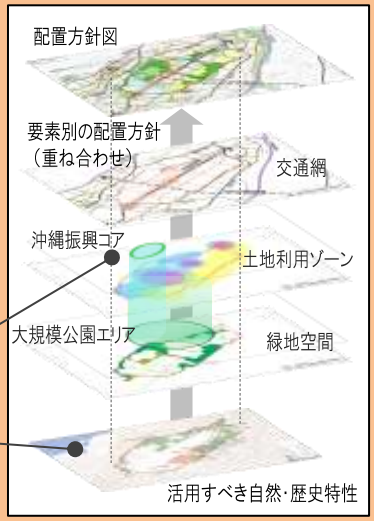
「全体計画の中間取りまとめ（第２回）」の主要なポイントを強調したPV を制作し情報発信

① 全体計画の中間取りまとめ（第２回）主要なポイント等

「全体計画の中間取りまとめ（第２

1　**跡地の将来像～世界に誇れる優れた環境の創造～**
2　**揺るぎないまちづくりの方向性**
3　**計画づくりの４つの方針**
4　**緑地空間配置を重視した空間構成の方針**

【主要なポイント】
- 沖縄振興に向けた環境づくり（SDGｓ、脱炭素）
- 新たな価値を生み出す「みどり」の創造
- 沖縄振興に向けた象徴となる空間の形成
- 活用すべき自然・歴史特性の配置の確認
- 今後の取組内容と手順



（１）－２　ＰＶの制作

（１）－２－１　ＰＶの構成

「全体計画の中間取りまとめ（第２回）」の内容を伝えるＰＶを制作するため、その構成は、以下のように基本的に「全体計画の中間取りまとめ（第２回）」の構成に沿うものとし、実際の映像では計画内容のポイントやキーワードの強調等の工夫を行った。

令和４年度公表　PVの構成

０．プロローグ
・「中間取りまとめ」以降、有識者・県民市民等の意見を踏まえ「中間取りまとめ(第２回)」を策定

１．跡地の将来像
・世界に誇れる優れた環境を創造する「みどり（歴史・緑・地形・水）の中のまちづくり」

２．揺るぎないまちづくりの方向性
・状況の変化や時代のニーズが変化したとしても、柔軟に受け入れ、跡地のもつ地力を活かせる「揺るぎないまちづくりの方向性」を位置づけ（広域的な水と緑のネットワーク構造の形成、沖縄振興の舞台となる「みどりの中のまちづくり」、環境の豊かさが持続するまちづくり）

３．計画づくりの方針
・分野別の計画内容の検討成果（環境づくり・土地利用及び機能導入・都市基盤整備・周辺市街地整備との連携の方針）

４．活用すべき自然・歴史特性
・まちづくりの基盤となる歴史・緑・地形・水の特性や配置

５．緑地空間配置・大規模公園エリア
・自然・歴史特性の保全活用に向けた緑地空間配置、跡地全体を網羅した緑地空間配置
・公園・緑地と都市的土地利用が融合し、新たな価値を創造する大規模公園エリア

６．土地利用ゾーン配置
・沖縄振興コア＝大規模公園エリアの中核であり、沖縄振興の象徴
・振興拠点ゾーン＝創造と交流の場。知的生産の場、広域防災機能、行政機能等を備える
・都市拠点ゾーン＝振興拠点ゾーンを補完し、集客・生活利便機能を備える
・居住ゾーン＝跡地の歴史的な特性を活かし、多様なライフスタイルを実現する

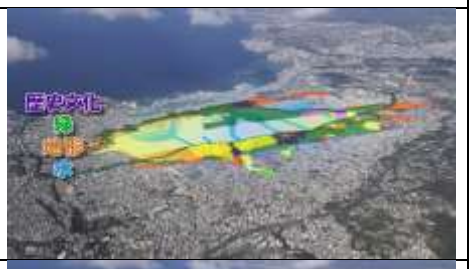
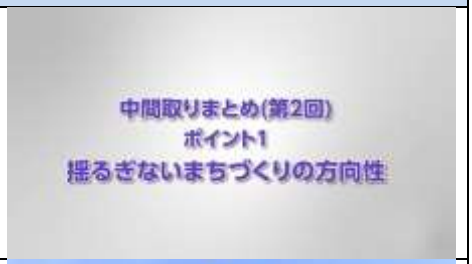
７．交通網配置
・中部縦貫道路・宜野湾横断道路・鉄軌道等の公共交通の導入

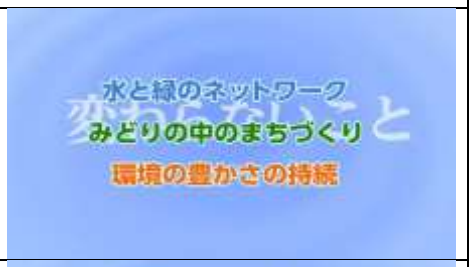
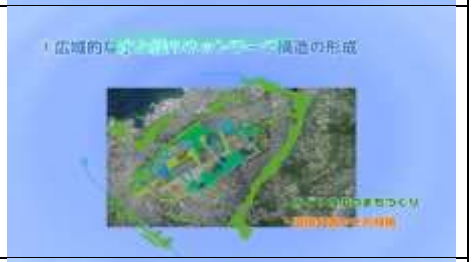
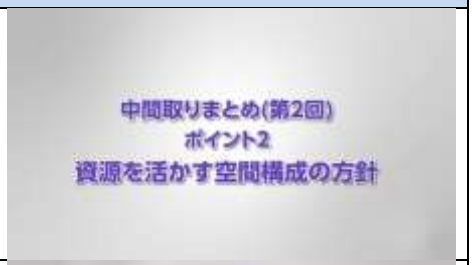
８．エピローグ
・今後の取組内容と手順を示し、未来のまちのイメージをもとに跡地利用の気運醸成を図る

（1）－2－2　PVシナリオ

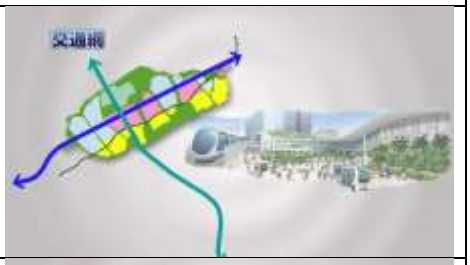
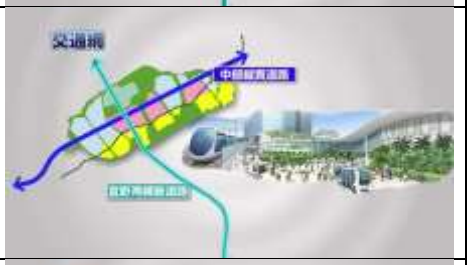
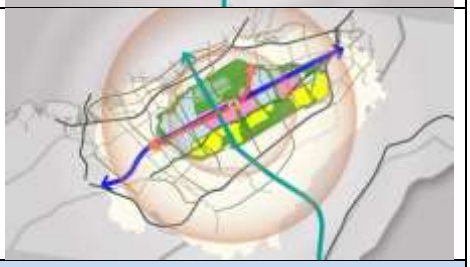
No	time	コメント案	画像・文字情報メモ
Ⅰプロローグ			
01		1996年日本とアメリカの話し合いで、普天間飛行場を日本に返すことが決まりました。	
02		2006 年飛行場の跡地をどのよう使うか、その基本的な方向性を公表しました。 この方向性を元に、跡地利用計画の検討を進め、	
03		2013年途中経過の「全体計画の中間取りまとめ」を公表しました。	
04		その後、県民市民・地権者のみなさんや有識者の意見を伺いながら、調査や、計画の検討を進め	
05		2022年「中間取りまとめ」の更新版を公表します。	
06	1′ 05″ /1′ 05″	＜タイトル＞	

No	time	コメント案	画像・文字情報メモ
Ⅱ跡地の将来像			
07		＜中見出し＞（扉）	
08		（1.旧集落図） 宜野湾市の4分の1を占める飛行場ですが、飛行場になる前は、多くの村や畑があり人々が暮らしていました。	
09		（2.シマの基層） 飛行場の地下には、サンゴ礁からできた琉球石灰岩層があり、雨水を濾過して、硬い島尻泥岩層の上を流れる 豊富な水脈や洞穴があると考えられます。	
10		琉球石灰岩層がつくる高低差は西海岸を展望できる高台の地形になっています。	
11		豊富な地下水脈に育まれ、生き生きと繁った木々は、季節風から生活を守り、暮らしを豊かにしていました。	
12		飛行場には、昔の人たちの 自然を活かす知恵や暮らしから生まれた文化が、まだ残っていると考えられます。	

No	time	コメント案	画像・文字情報メモ
13		（3.飛行場の撤廃） 飛行場が返還され、新しいまちをつくる時に、この、水・地形・緑・歴史文化を 地域の資源として活かし、	
14		（4.土地利用計画） 多くの人々が、暮らし・働き・訪れる場をつくること。	
15		（5.交通網） そして、分断されていた東西南北を道路や鉄軌道などの交通網でつなぎ、	
16	1′ 51″ /2′ 56″	（6.計画図） 都市の機能と自然や文化を合わせ持つ、世界に誇れる環境の 新しいまちをつくること。 それが普天間飛行場跡地の目指す姿です。	
Ⅲ中間取りまとめ（第2回）のポイント1　「揺るぎないまちづくりの方向性」			
17		＜中見出し＞（扉）	
18		２０１３年に策定した中間取りまとめからおよそ 10 年。	
19		人々のライフスタイルや価値観、環境に対する意識も変わり、 跡地利用の考え方も少しずつ変化してきました。	

No	time	コメント案	画像・文字情報メモ
20		しかし、どんなに時代が変わっても、揺らぐことなく、大切にしたい３つのことを、計画の考え方の中にはっきりと盛り込みました。	
21		飛行場に残る水と緑、新たに生み出す緑、周辺の水と緑を一体にした、水と緑のネットワークを創ります。	
22		この水と緑のネットワークを活かし、都市機能を融合させることで、この地の価値を高め、魅力的な環境のみどりの中のまちをつくります。	
23		この水と緑の環境の豊かさを持続させるために、人材やその時点の最新技術を活かしていきます。	
24	1′ 29″ /4′ 25″	時代や社会のニーズがどんなに変化しても、飛行場が持つ自然と歴史文化を活かすこと、それを揺るぎないまちづくりの考え方としました。	
Ⅳ中間取りまとめ（第2回）のポイント２　資源を活かす空間構成の方針			
25		＜中見出し＞（扉）	
26		公共と民間が協力しながら一緒に創り出す緑地空間と、都市空間を融合させた、	

No	time	コメント案	画像・文字情報メモ
27		大規模公園エリアが「みどりの中のまちづくり」の中心です。	
28		大規模公園エリアの中でも核となる「沖縄振興コア」平和を願う万国津梁の志をもって、沖縄に活力を与えるシンボルとなることをめざします。 ここを起点に、特色のあるまちが広がります。	
29		高台から海を望む眺望のよい振興拠点ゾーンは、研究開発などの創造性や発想力を引き出す企業には魅力的なロケーションです。	
30		先にまちづくりが進められている沖縄健康医療拠点ともつながり、沖縄に新しい産業を生み出すゾーンです。	
31		都市拠点ゾーンは、まちの中心軸に沿って、商業やサービスを配置。 ここに暮らす人、働く人、学ぶ人、そして周辺の皆さんの生活をサポートする、まちの原動力となるゾーンです。	
32		かつて、普天満宮への参道だった並松街道が通り、先人たちが自然を活かす知恵で暮らした旧集落があった東側一帯は、居住ゾーンです。飛行場の跡地周辺のまちともつながる住宅地を想定しています。	

No	time	コメント案	画像・文字情報メモ
33		大規模公園エリアと３つのゾーンの間を通るのが、いままで飛行場があるために分断されていた東西南北をつなげる交通網です。	
34		中南部都市圏を南北につなぐ 「中部縦貫道路」	
35		東海岸と西海岸をつなぐ 「宜野湾横断道路」	
36		そして、那覇から名護を１時間で結ぶ予定の「沖縄鉄軌道」が計画されています。	
37	2′ 37″ /7′ 02″	これらの交通網により、新しいまちの外と中がつながり、広く自由に行動できるようになります。	
Ｖエンディング			
38		この計画は、これからも県民市民のみなさん、地権者のみなさん、未来を担う若者たちからも多くの意見を伺い、	
39		検討を重ね、時代や社会の変化に柔軟に対応しながら更新していきます。	

No	time	コメント案	画像・文字情報メモ
40		跡地に引き継がれる自然や歴史文化などの資源や先人たちの思いの上に、まちが生まれかわり…	
41		人が集まり、産業を興し、創造性にあふれた多様な暮らしを実現する未来のまち。 新たなモデルとなる、 世界に誇れる環境のまちを、 共に創っていきましょう。	
42	1′ 1″ /8′ 3		
	8分3秒		

（２）バーチャル普天間未来シティの制作

本章「１．（２）今後の合意形成・情報発信のあり方検討」を踏まえ、いつでも・どこでも・誰にでも（時間・場所・人に限定されず）、より積極的な情報発信を可能にする情報プラットフォームとしてバーチャル普天間未来シティを制作し、今年度はパソコン用のウェブブラウザで閲覧・体験できるコンテンツを制作した。

尚、バーチャル普天間未来シティを制作にあたっては、ＶＲをベースとした体験空間（跡地の特性を伝える空間）を制作し、原風景模型等これまでに制作したコンテンツを活用（再編集）した。

（２）－１　バーチャル普天間未来シティの制作に向けての考え方

（２）－１－１　基本的な考え方

・跡地の成り立ちや未来のまちのイメージを伝えるために、ＶＲを活用しながら、跡地を知り、学び、体験できるシーンを展開
・過去・現在・未来、それぞれの跡地を体験できるシーンを展開
・跡地の土地利用の特徴を示すため、沖縄振興コア周辺（振興拠点ゾーン・都市拠点ゾーン）、並松街道（居住ゾーン）を体験できるシーンを展開

（２）－１－２　コンテンツ制作に向けての考え方

①**「中間取りまとめ（第２回）」の重要な要素であり、視覚的に表現することでイメージを伝えやすいコンテンツ**（活用すべき自然・歴史特性、要素別の配置方針、配置方針図等）**を活用**
②過年度の制作物を活かし（原風景模型、パネル等）、**跡地の歴史・自然特性等を知り、学ぶことができるコンテンツを制作**
③バーチャル普天間未来シティ制作の**初年度にあたる今年度は、表現方法の技術的検証・３Ｄならではの見せ方の検討を行い、コンテンツを制作**
・マウス操作で３Ｄ空間の移動を可能にし、また説明用ポップアップをつくる等、ブラウザ上での操作性（ユーザインターフェイス）やデータ容量の検証等の技術的検証を踏まえ、３Ｄならではの見せ方、楽しみ方ができるようなコンテンツ制作を行い、来年度以降へつなげる。

（２）－２　ＶＲを活用した体験空間の概略検討

これまでに制作したコンテンツを整理することで、活用可能なコンテンツを明らかにし、また体験空間との組み合わせを検討した。

（２）－２－１　体験空間で展開する情報の整理

次頁の「これまでの取組・制作コンテンツ一覧」を以下の通りにカテゴライズし、体験空間と組み合わせる情報を整理した。

表Ⅲ－４　これまでの取組・制作コンテンツのカテゴリー

	カテゴリー	制作コンテンツ例
	普天間飛行場跡地の過去・現在 （普遍的な資源など）	・原風景模型 ・過去・現在の航空写真 ・普遍的資源・歴史に関するパネルなど
	普天間飛行場跡地の未来 （みどりの中のまちづくり）	・みどりのなかのまちづくりの PV、 ・みどりの効果に関するパネルなど
	普天間飛行場跡地の未来 （その他）	・中間とりまとめ紹介パネル ・「「計画内容の具体化」に関する取組の概要」パンフレット ・新しい沖縄のライフスタイル紹介パネルなど
	普天間飛行場跡地の参考	・海外事例視察のレポート、動画など
	その他	・イベント実施レポートなど

表Ⅲ-５　これまでの取組・制作コンテンツ一覧（１）

年度	○取組・●コンテンツ	HP掲載		備考
		掲載有無	掲載箇所	
2013(H25)	●PV「普天間未来予想図」	○	動画で見る普天間未来予想図	8分17秒の動画
	●県民向けPRパンフレット	○	計画のポイント	HPではパンフレットを4枚に分割し掲載（最新情報に要更新）
	●地形模型	×		
	○大規模基地返還跡地利用計画提案コンペ	○	県民の声	上位5作品を掲載（計20枚）　パネルからの接写データあり
	○県民フォーラム（第10回）	×		
	○PRキャラバン	×		
2014(H26)	●PV「vol1. 中央エリア」	○	未来のまちイメージPV	7分56秒の動画
2015(H27)	●PV「vol2. 北側エリア」	○	未来のまちイメージPV	10分18秒の動画
	●地層模型	×		
	●英語版パンフレット作成（中間取りまとめ・広域構想）	○	ENGLISH	両パンフレットを掲載（計8枚）
	○ワークショップ	×		実施レポート／記録
2016(H28)	●PV「vol3. 南側エリア」	○	未来のまちイメージPV	10分46秒の動画
	●原風景模型	○	模型で見るむかしの風景	集落の構成要素（計25か所）を紹介
	●原風景模型の説明パンフレット	×		
	○まちま～い	○	原風景を探しに行こう！	実施レポートを掲載
2017(H29)	●PV「緑の中のまちづくり編」	○	緑の中のまちづくり	7分15秒の動画
	○海外視察「シンガポール」	○	緑の中のまちづくり	5分45秒の動画
2018(H30)	●パンフレット「「計画内容の具体化」に関する取組の概要」	×		
	●イベント用PV「シマの基層編」（過年度PVの再編集）	×		3分13秒の動画
	●イベント用PV「緑の中のまちづくり」（過年度PVの再編集）	×		6分1秒の動画
	●イベント用PV「シアター映像」	×		7分48秒の動画
	●現在の航空写真マット	×		
	●戦前の航空写真マット	×		
	●VRによるまちまーい	×		ポップアップが出るVR
	●展示イベント①パネル（図書館イベント）	－	体験イベント	パネル（9枚）掲載（子ども用）
	01_みんなの家は？（基地周辺の学校等をマークした航空写真）	○		
	02_普天間飛行場のこと（普天間飛行場の歴史的経緯と宜野湾市に占める飛行場の割合）	○		
	03_比べてみよう今・昔（1945年と2009年の航空写真で比較）	○		
	04_普天間飛行場はどんなところ？（シマの基層説明）	○		中間取りまとめ報告よりリライト
	05_模型でわかる＜地形と緑を活かした集落の様子＞（風から守る緑地・屋敷林）	○		原風景模型の説明パンフレットよりリライト
	06_模型でわかる＜昔の集落の様子（旧宜野湾集落）	○		HP「模型で見る昔の風景」をパネル化
	07_模型でわかる＜昔の集落の様子（旧神山集落）	○		HP「模型で見る昔の風景」をパネル化
	08_基地がまちになれば、こんなに変わる！（返還前と返還後の事例紹介）	○		県民向けPRパンフレットよりパネル化
	09_未来のまちのキーワード（緑の中のまち、緑の効果）	○		PV「緑の中のまちづくり」より抜粋パネル化
	●展示イベント②パネル	－		※パネル（11枚）の掲載なし
	01　普天間飛行場跡地利用計画の中間とりまとめ_1	×		
	02　普天間飛行場跡地利用計画の中間とりまとめ_2	×		
	03　普天間飛行場及び周辺における自然環境資源	×		

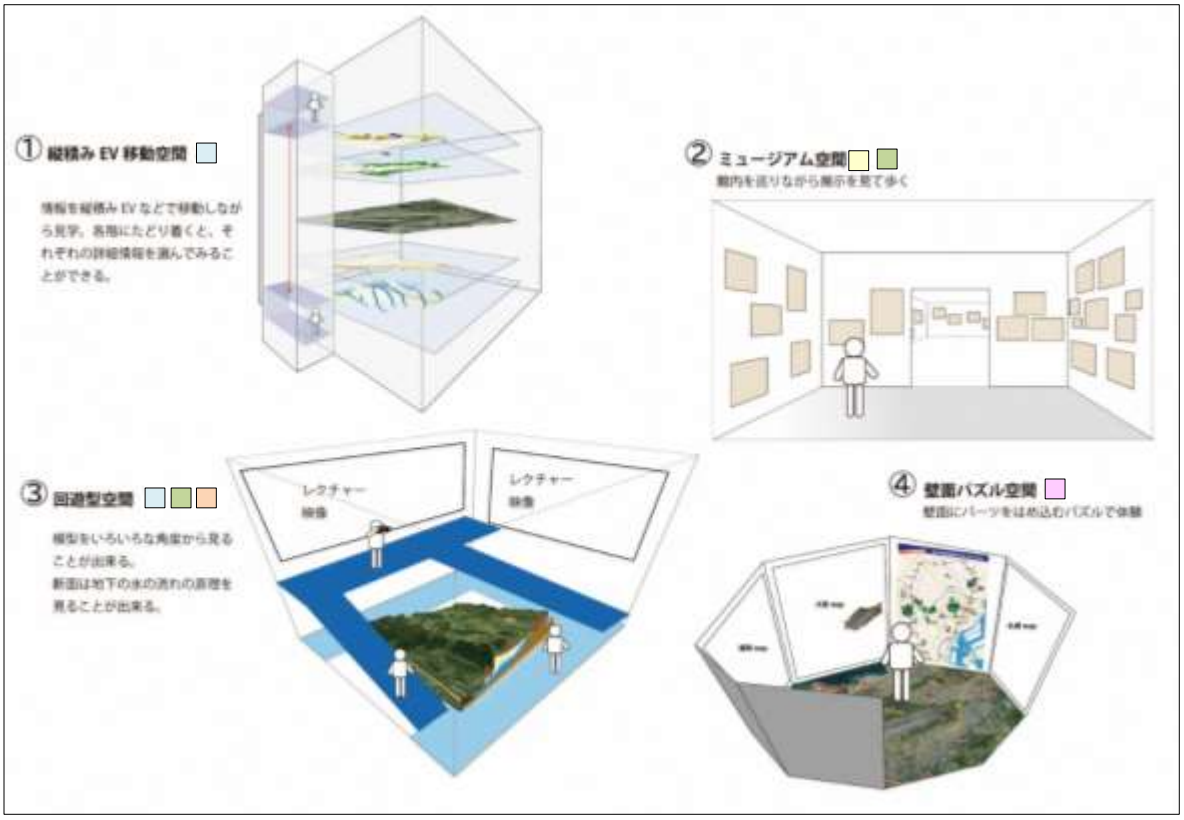
表Ⅲ-６　これまでの取組・制作コンテンツ一覧（２）

年度	○取組・●コンテンツ	HP掲載		備考
		掲載有無	掲載箇所	
	04　普天間飛行場及び周辺における歴史文化資源	×		
	05　模型でわかる地形と緑を活かした集落のようす	×		
	06　模型でわかる戦前の集落の様子	×		
	07　基地がまちになれば、こんなに変わる！	×		
	08　未来のまちのキーワード	×		
	09　新しい沖縄のライフスタイル_1	×		
	10　新しい沖縄のライフスタイル_2	×		
	11　新しい沖縄のライフスタイル_3	×		
	●イベント配布用オリジナルクリアーファイル	×		（まんがキャラクター入り）（ノベルティ）
	○展示イベント①宜野湾市民図書館	○	体験イベント	実施レポート
	○展示イベント②トータルリビングショウ	○	体験イベント	実施レポート
	○海外視察「オーストラリア」	○	緑の中のまちづくり	実施レポート
2019(R1)	●PV「vol4. みどりの中のまちづくりイメージ」	○	未来のまちイメージPV	8分26秒の動画
	●イベント用PV「過去・現在・未来」	×		7分2秒の動画
	●展示イベントパネル	○	体験イベント	パネル（5枚）掲載
	コーナー１　沖縄を感じる	-		
	01_東京と沖縄っをくらべてみよう！（東京都と沖縄本島の比較）	○		
	02_山手線の中に普天間飛行場をはめてみよう（広さを感じる）	○		
	03_宜野湾市空撮シート（飛行場と周辺公共施設）	○		
	コーナー２　普天間未来予想図の意見聴取	-		
	04～05_沖縄の未来で行ってみたいところは？（未来予想図から人気投票）	○		
	○展示イベント「こども霞が関見学デー」	○	体験イベント	実施レポート
	○海外視察「ドイツ」	○	緑の中のまちづくり	実施レポート
2020(R2)	-	-		

（２）－２－２　体験空間の概略検討案の作成

バーチャル普天間未来シティの体験空間を４案検討し、各空間の特性を活かしながら発信可能な情報カテゴリーを整理した。

バーチャル普天間未来シティでは、以下の①③空間をベースとした空間を２つ制作し、発信する情報の再整理を行った。また、跡地の特性を示す空間の提供を行うために、沖縄振興コア周辺・並松街道周辺の空間もあわせて、体験可能なものとした。



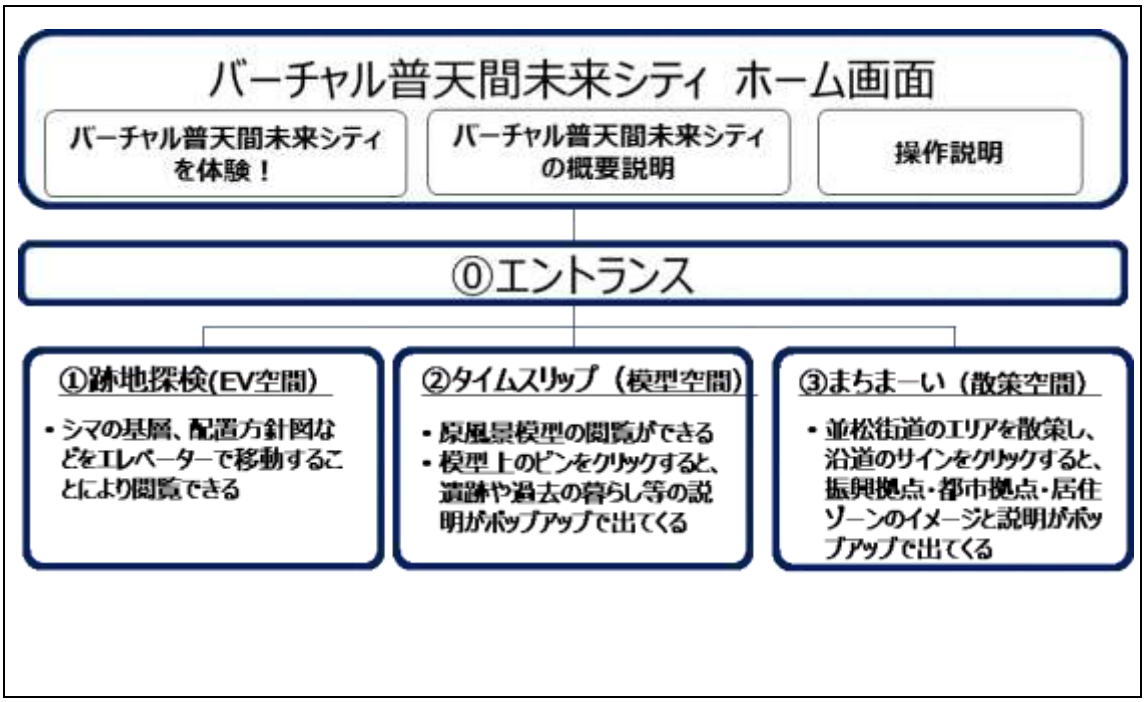
図Ⅲ-14　体験空間の概略検討案

（２）－３　シーン構成・システムフロー等の検討

体験空間の概略検討案を踏まえ、バーチャル普天間未来シティの全体のシーン構成、システムフロー、コンテンツの相関関係等を整理した。

（２）－３－１　バーチャル普天間未来シティのシーン構成概略

パソコン用のウェブブラウザで、ユーザーが体験するシーンの概略を示す。ブラウザ上のホーム画面からはじまり、バーチャル普天間未来シティを体験する４つの体験空間からなる（⓪エントランス空間、①跡地探検（EV 空間）、②タイムスリップ（模型空間）、③まちまーい（散策空間））。



図Ⅲ-15　シーン構成概略

（2）－3－2　バーチャル普天間未来シティのシーンイメージ

ユーザーが体験する各シーンのイメージや各空間で体験する内容を示す。

図Ⅲ-16　シーンイメージ（１／２）

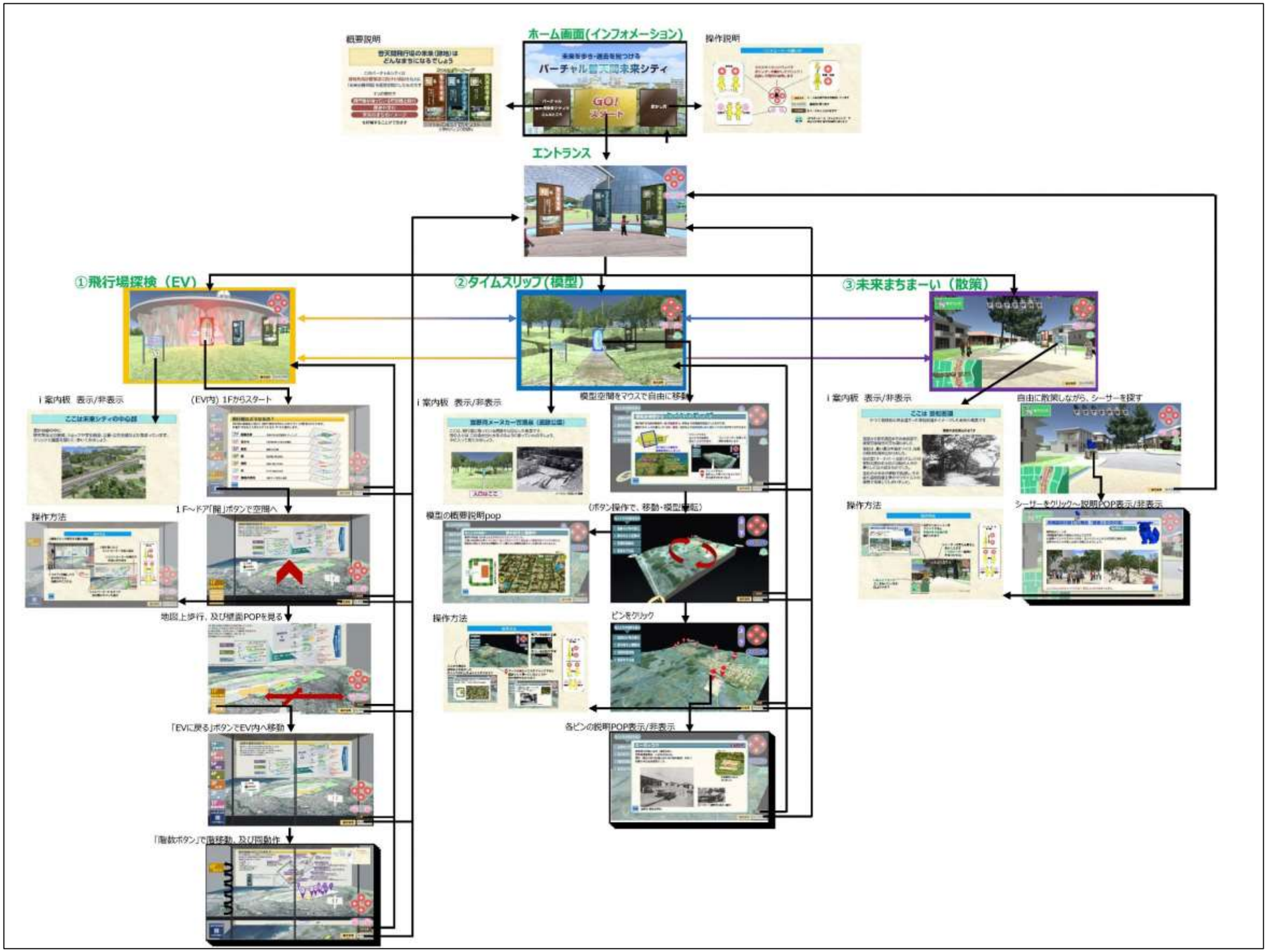
図Ⅲ-17　シーンイメージ（２／２）

（2）－3－3　システムフロー・コンテンツの相関関係

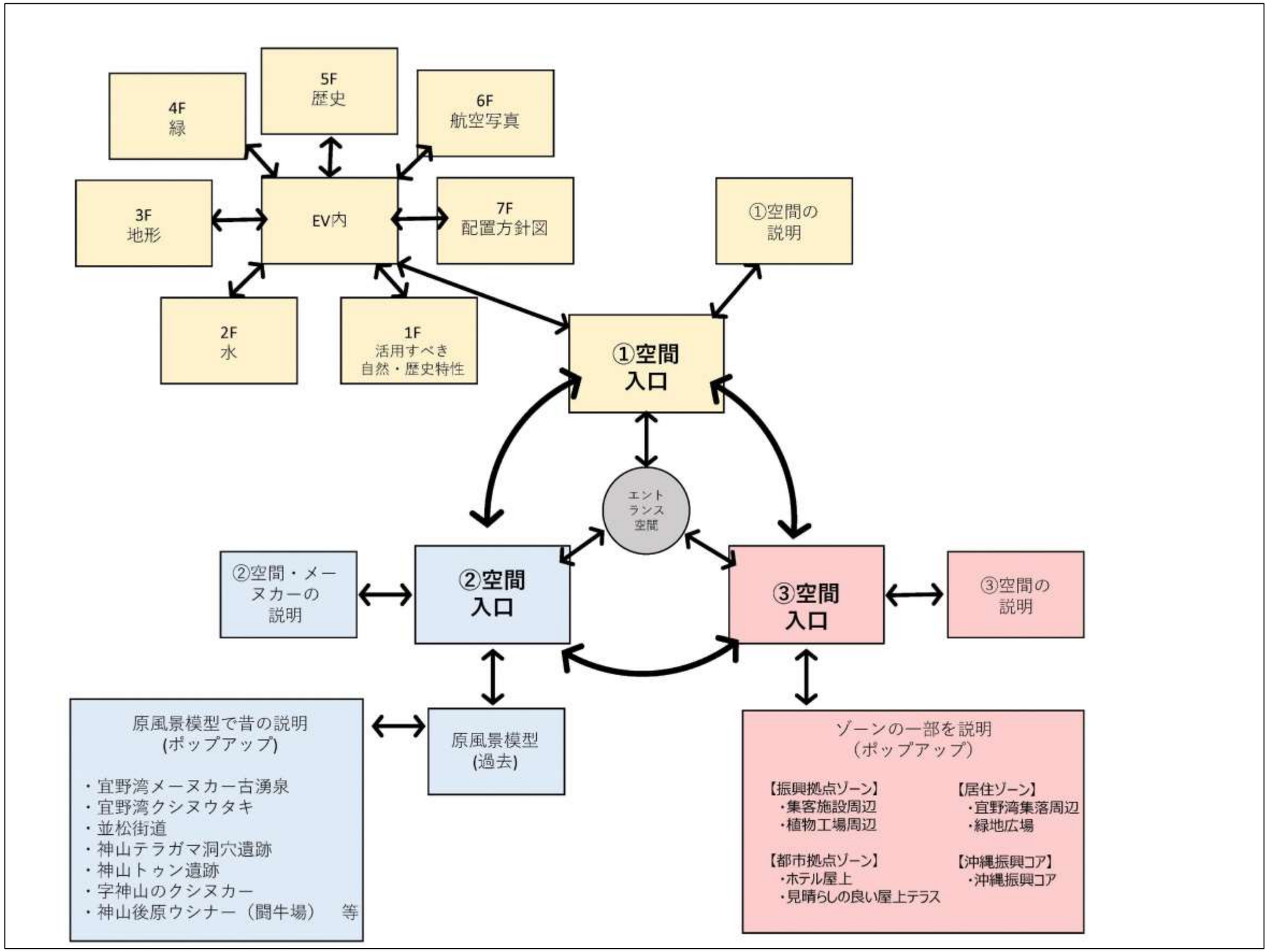
各空間等での操作イメージ等を示したシステムフロー図と、各空間やコンテンツのつながりを示すコンテンツ相関図を次頁以降に整理した。なお、各図の概略は以下に示す。

表Ⅲ-7　システムフロー図・コンテンツ相関図概略

図	画面・空間	概略
システムフロー図	ホーム画面	以下のコンテンツの画面イメージ（ボタン配置等）を示す ・バーチャル普天間未来シティとは ・操作説明 ・バーチャル普天間未来シティのエントランスへのリンク
	エントランス	・エントランス空間の画面イメージ
	飛行場探検（①空間）	・①空間として制作したエレベーター（ＥＶ）空間内での画面イメージ（ボタン配置等）、ユーザーの動き・操作等を示す
	タイムスリップ（②空間）	・②空間内での画面イメージ（ボタン配置等）、ユーザーの動き・操作等を示す
	未来まちまーい（③空間）	・③空間内での画面イメージ（ボタン配置等）、ユーザーの動き・操作等を示す
コンテンツ相関図	エントランス	・エントランスからつながる空間・コンテンツを示す（①～③空間へ移動可能）
	飛行場探検（①空間）	・①空間入り口では、エントランス・②空間・③空間につながる ・①空間内でつながる空間・コンテンツを示す（ＥＶ・各フロア・①空間の説明へ移動可能）
	タイムスリップ（②空間）	・②空間入り口では、エントランス・①空間・③空間につながる ・②空間内でつながる空間・コンテンツを示す（原風景模型のある部屋・原風景模型の説明・②空間の説明へ移動可能）
	未来まちまーい（③空間）	・③空間入り口では、エントランス・①空間・②空間につながる ・③空間内でつながる空間・コンテンツを示す（跡地の３つのゾーンの説明・③空間の説明へ移動可能）



図Ⅲ-18　システムフロー図



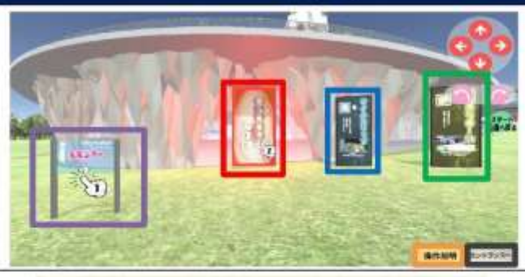
図Ⅲ-19　コンテンツ相関図

（2）－4　ポップアップ・サイン等のイメージ

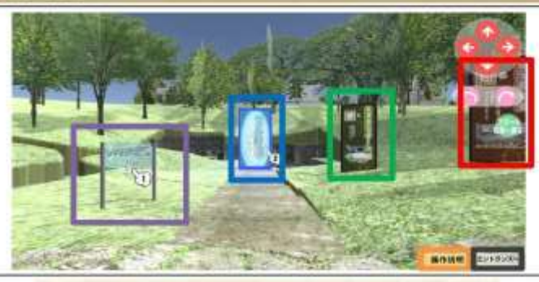
ウェブブラウザのホーム画面、体験空間内に設置されるサイン（看板）・説明用のポップアップ等の各コンテンツのイメージ画像とその設置位置を次頁以降に示す。

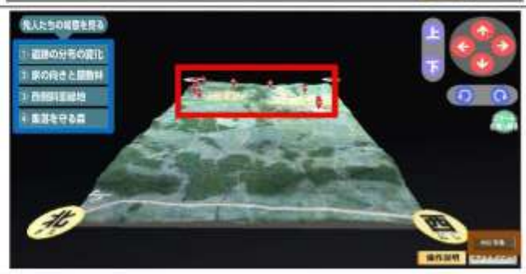
① コンテンツ一覧

番号	設置位置	イメージ	表示/操作形式	備考
001	ホーム画面			・トップ画面 ・□クリックで002が出現 ・□クリックで003が出現 ・□クリックで004に移動
002	ホーム画面		ポップアップ	
003	ホーム画面		ポップアップ	
004	エントランス		ポップアップ	・closeをクリック後、007のサインをクリック
005	エントランス			
006	エントランス		サイン（ボタン）	・□クリックで007に移動 ・□クリックで025に移動 ・□クリックで043に移動

番号	設置位置	図 イメージ	表示/操作形式	備考
007	飛行場探検			・□クリックで008が出現 ・□クリックで009が出現 ・□クリックで005に移動 ・□クリックで010に移動 ・□クリックで025に移動 ・□クリックで043に移動
008	飛行場探検		ポップアップ	
009	飛行場探検		ポップアップ	
010	飛行場探検 (EV内)		ポップアップ	・closeをクリック後、各階のボタンをクリックし、それぞれの階へ移動
011	飛行場探検 (EV内・1F)		床面	
012	飛行場探検 (EV内・1F)		壁面	
013	飛行場探検 (EV内・2F)		床面	

番号	設置位置	図 イメージ	表示/操作形式	備考
014	飛行場探検 (LV内・2F)		壁面	
015	飛行場探検 (EV内・3F)		床面	
016	飛行場探検 (LV内・3F)		壁面	
017	飛行場探検 (EV内・4F)		床面	
018	飛行場探検 (EV内・4F)		壁面	
019	飛行場探検 (EV内・5F)		床面	
020	飛行場探検 (EV内・5F)		壁面	

番号	設置位置	図 イメージ	表示/操作形式	備考
021	飛行場探検 (EV内・6F)		床面	
022	飛行場探検 (EV内・6F)		壁面	
023	飛行場探検 (EV内・7F)		床面	
024	飛行場探検 (EV内・7F)		壁面	
025	タイムスリップ			・□クリックで026が出現 ・□クリックで027が出現 ・□クリックで005に移動 ・□クリックで028に移動 ・□クリックで043に移動 ・□クリックで007に移動
026	タイムスリップ		ポップアップ	
027	タイムスリップ		ポップアップ	

番号	設置位置	図 イメージ	表示/操作形式	備考
028	タイムスリップ		ポップアップ	・closeをクリック後、画面のボタン・ピンをクリックし、各ポップアップを表示させる
029	タイムスリップ			・□クリックで025に移動 ・□クリックで030～033（先人たちの知恵①～④）が出現 ・□クリックで034～042が出現
030	タイムスリップ		ポップアップ	
031	タイムスリップ		ポップアップ	
032	タイムスリップ		ポップアップ	
033	タイムスリップ		ポップアップ	
034	タイムスリップ		ポップアップ	

番号	設置位置	図 イメージ	表示/操作形式	備考
035	タイムスリップ		ポップアップ	
036	タイムスリップ		ポップアップ	
037	タイムスリップ		ポップアップ	
038	タイムスリップ		ポップアップ	
039	タイムスリップ		ポップアップ	
040	タイムスリップ		ポップアップ	
041	タイムスリップ		ポップアップ	

番号	設置拠点	図 イメージ	表示/操作形式	備考
042	タイムスリップ		ポップアップ	
043	未来まちまーい		ポップアップ	
044	未来まちまーい			・□クリックで045が出現 ・□クリックで046が出現 ・□クリックで005に移動 ・□クリックで007に移動 ・□クリックで025に移動 ・沿道のシーサーをクリックすると、047～053が出現
045	未来まちまーい		ポップアップ	
046	未来まちまーい		ポップアップ	
047	未来まちまーい		ポップアップ	
048	未来まちまーい		ポップアップ	

番号	設置位置	図 イメージ	表示/操作形式	備考
049	未来まちまーい		ポップアップ	
050	未来まちまーい		ポップアップ	
051	未来まちまーい		ポップアップ	
052	未来まちまーい		ポップアップ	
053	未来まちまーい		ポップアップ	

（２）－５　バーチャル普天間未来シティの宣伝用ＰＶ（ＣＭ）の制作

情報プラットフォームとしてのバーチャル普天間未来シティを広く国内に広めるため、より積極的な情報発信を行うために、ＣＭを制作した。以下にその考え方等を示す。

（２）－５－１　基本的な考え方

・いつでも・どこでも・誰にでも（時間・場所・人に限定されず）、より積極的な情報発信を可能にする情報プラットフォームであるバーチャル普天間未来シティをより多くの人に周知するためのツールとする。
・多くの人に周知するために、商業施設等において目に留まりやすく、簡単にバーチャル普天間未来シティの内容を理解できるＣＭ（30 秒程度）とする。

（２）－５－２　CM 構成・内容の考え方

①冒頭：注意喚起
・視覚と聴覚でＣＭを流しているモニターの周辺にいる人の意識をキャッチ

②中間：３空間の説明
・跡地探検（ＥＶ空間）で、跡地の可能性を知る
・タイムスリップ（模型空間）で先人の知恵を見る
・未来まちまーい（散策空間）で未来のまちを歩く

③末尾：ＨＰへの誘導
・パソコンの web ブラウザでバーチャル普天間未来シティを体験できるように、ホームページへ誘導

（２）－５－３　CM による情報発信方法

ＣＭの放映場所としては、県市庁舎１Ｆエントランス、県市主催のイベント、県内外の集客施設等を想定する。尚、県内における集客施設候補地を以下に整理する。

■放映が可能な集客施設

	上映場所	費用	備考
①	サンエー浦添西海岸パルコシティ	無料	放映回数の指定不可
②	イーアス沖縄豊崎	―	実績・依頼がない為、企画書を提出後、金額も含めて精査する
③	那覇バスターミナル	1カ月：15万円 キャンペーン価格：2万円（2021年1月時点）	2回/時（30秒） ※放映回数・日数の調整可
④	あしびビジョン	1カ月：49万9200円	2回/時（30秒） 放映時間：7時～23時 ※放映回数・日数の調整可
⑤	那覇てんぶすビジョン	1カ月：12万3200円	2回/時（30秒） 放映時間：9時～20時 ※放映回数の調整可

①

②

③

④

⑤

（2）－5－4　CMの映像

No	映像
①冒頭：注意喚起	
01	
②中間：3空間の説明	
02	

03	
04	
③末尾：ＨＰへの誘導	
05	

４．パンフレットの制作

本節では、今年度制作したパンフレットの目的及び構成等について整理した。

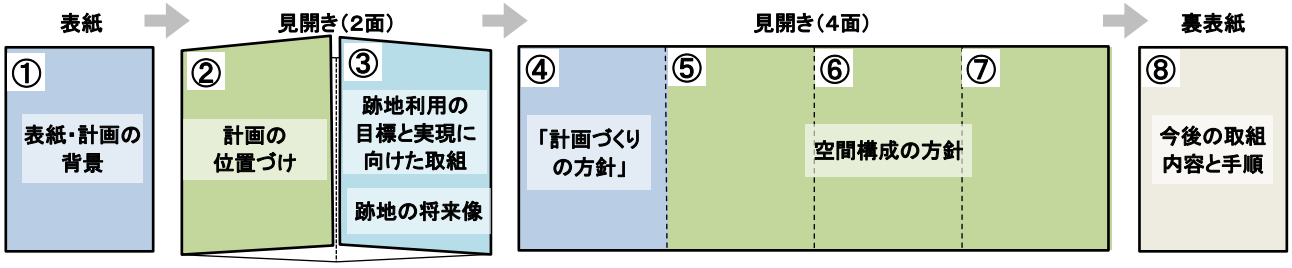
（１）パンフレット制作の目的

「全体計画の中間取りまとめ（第２回）（委員会案）」を県市庁内及び関係者への説明するための資料としてパンフレットを制作した。

なお、来年度に策定する「全体計画の中間取りまとめ（第２回）」の内容を県民市民及び地権者に周知させるパンフレットの素案としての役割も担うものである。

（２）パンフレットの構成

パンフレットの構成は、表面、中面を併せて８面構成、観音開きでＡ４仕上がりとした。



図Ⅲ－26　パンフレットの構成

（３）「全体計画の中間取りまとめ（第２回）（委員会案）」パンフレット

普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた
「全体計画の中間取りまとめ（第２回）（委員会案）」

普天間飛行場の跡地利用について、沖縄県と宜野湾市の共同により、「普天間飛行場跡地利用基本方針（平成 18 年２月）」及び「普天間飛行場跡地利用計画の策定に向けた行動計画（平成 19 年５月）」を策定し、これらにもとづき、県内の学識経験者、関係者との合意形成に向けた取組を進め、「跡地利用計画」の策定に向けた中間的な成果となる「全体計画の中間取りまとめ」を平成 25 年３月に策定しました。

その後、計画内容の具体化に向けた「方針計画」を作成し、この方針計画にもとづき県民・地権者等への情報発信、意見聴取や関係機関との調整を行うとともに、有識者等への意見聴取や検討会議を通じて取組内容の充実に取り組んできました。

「全体計画の中間取りまとめ」策定以降も本格的な埋立てに関する環境影響評価の手続や、国の埋立承認の変更や文化財保護法に関する現状変更の許可申請、有識者検討会議、県民・地権者等の意見、社会状況の変化等を踏まえ、「普天間飛行場跡地利用計画検討委員会」において、中間的な成果の位置付けとして「全体計画の中間取りまとめ（第２回）（委員会案）」の検討を取りまとめました。今後、この委員会案をもとに、「全体計画の中間取りまとめ（第２回）」を沖縄県及び宜野湾市が策定・公表する予定です。

今後、この「全体計画の中間取りまとめ（第２回）」をもとに、県民、地権者等の皆さまの御意見を聴きながら、沖縄全体の発展に資する跡地利用計画検討としていただいていると考えております。

令和４年３月
沖縄県
宜野湾市

「全体計画の中間取りまとめ（第２回）」の位置づけ

・跡地利用計画の策定までの取組の流れ

普天間飛行場跡地利用基本方針

普天間飛行場跡地利用計画の策定に向けた行動計画

・沖縄21世紀ビジョン
・沖縄21世紀ビジョン基本計画

・フォローアップ（跡地利用に関する取組状況）

「前提条件の整理」、「計画方針の取りまとめ」に向けた取組

「全体計画の中間取りまとめ」の策定

「計画内容の具体化」に向けた取組

「全体計画の中間取りまとめ（第２回）」の策定

「計画内容の具体化」に向けた取組

取組方針
・全体計画の中間取りまとめ（第２回）」の内容を考えるための考え方
・計画の具体化
・「計画内容の具体化」に向けた取組
・土地利用の方針
・都市基盤整備の方針
・緑地の方針
・地区ごとの整備方針
・実現化の方針
・まちづくりの方針

検討体制
・地権者
・県民
・有識者
・関係機関
・市町村

意見聴取
・地権者
・県民
・有識者
・関係機関
・市町村

「全体計画」の策定

「跡地利用計画」の策定

計画づくりの方針

まちづくりの方針

沖縄振興に向けた環境づくり

・「広がりのあるまちづくりの仕掛け」の導入を図るとともに、「広域幹線道路ネットワーク」と「ネットワーク駅」、「拠点地区」を連携・調和する機能配置を図ります。

・これら連携づくりの核となるとともに、沖縄県と公益の増進、個性豊かな人々の「交流」により、新たな発想、成長して跡地で働く場の実現に寄与するとともに引き続きの拡大と発展

地域の特性を活かした環境づくり

・地域の自然・歴史資源等を活かす観点として環境に配慮することを基本とし、新たな自然、豊かな緑、潤いのある水辺、歴史的遺産等を活かした魅力づくりを図る

土地利用及び機能導入の方針

新たな価値を生み出す「みどり」の創造

・沖縄県・宜野湾市の豊かな文化を育む、新たな「みどり」機能を生み出すことで、国内外に誇れ魅力ある環境空間を生み、育んでいきます

沖縄振興に向けた象徴となる空間の形成

・人々が交流・リラックスする中心として、日本復帰の記念公園である沖縄復帰の記念や多文化・ウチナーなどの象徴となる「沖縄国際コア」を形成

多様な機能の複合によるまちづくり

・おおむね広域の骨格や沿道をもとにした幅広な機能導入の区域、および、地域の利便向上を図る「地域内複合ゾーン」、「沿道サービスゾーン」、「沖縄国際コア」（国際拠点、産業拠点、など）による複合的なまちづくりを展開

土地利用需要の変化と合わせた計画づくり

・計画的な土地利用においては、時代の変化や社会情勢に対して、柔軟かつ適切に対応できるよう、計画から事業までの一定の期間を考慮し、社会情勢の変化等を踏まえ、計画づくりを推進

都市基盤整備の方針

幹線道路等の整備

・普天間飛行場の跡地では、新たまちを支援するとともに、周辺地域の交通機能の強化を図るため、幹線道路等の整備を図ります。

鉄軌道を含む新たな公共交通機関の整備

・鉄軌道を含む新機能を支え、活力のあるまちづくりの実現において大きな役割を担うものと、活力ある持続的な成長と発展の基盤整備の観点から、鉄軌道を含む公共交通の導入を図ります。

道路空間等の整備

・みどりのネットワークの実現に向けて、公園道路の一体、沿道一帯からの「みどり」の連続した大規模な緑のネットワークを形成

・沖縄県の環境や景観、歴史的特徴の記憶、温和、沿道の建物などから判断すると、建物の高さは、基本的に 100m 以下とする

防災施設・情報通信環境等の整備

・災害時の防災拠点においては、広域的な防災基盤施設を導入しながら、復旧づくりと連携した平常時から活用可能な防災公園等を整備

実現化方策整備との連携の方針

周辺利用地の活用と連携した整備利用

・周辺地区との連携による都市の発展、進んだ市民に配慮する公共施設の配置において、一定範囲で面的な整備を図るとともに、地区の特性から必要な施設（例：学術機関による研究機能の導入、国立公園の景観配慮の区域設定など）に応じた整備を導入

跡地と周辺市街地にまたがる機能づくりと都市基盤整備

・跡地と周辺市街地とまたがる、市内各地域でのまちづくりや都市基盤整備において、跡地のまちづくりを踏まえて、周辺市街地における計画づくりを推進

空間構成の方針

要素別の配置方針

都市拠点

・沖縄・国土づくりの象徴空間のネットワークの核となる機能

・都市拠点の核となる複合機能の配置

・跡地内外を結ぶネットワークの形成

・周辺地区からの利用に配慮した機能誘導の配置

土地利用ゾーン配置

・緑とみずを活かした土地利用ゾーンの設定

・沖縄振興の観点から特徴的なゾーニングの配置

・周辺地区との調和に配慮した複合的なゾーンの配置

・広域的な機能と地域的な機能とが混在の高さの考え方として、周辺地区との調和を図るゾーンの設定

交通基盤整備

・広域幹線道路（国道58号、一般県道宜野湾北谷線）のネットワーク形成

・広域的な交通需要に対応する幹線道路の配置

・交通量を分散するなど交通処理の配置

・配置方針の考え方イメージ

配置方針図

都市拠点

交通軸

沖縄国際コア

土地利用ゾーン

緑地公園ゾーン

緑地回廊

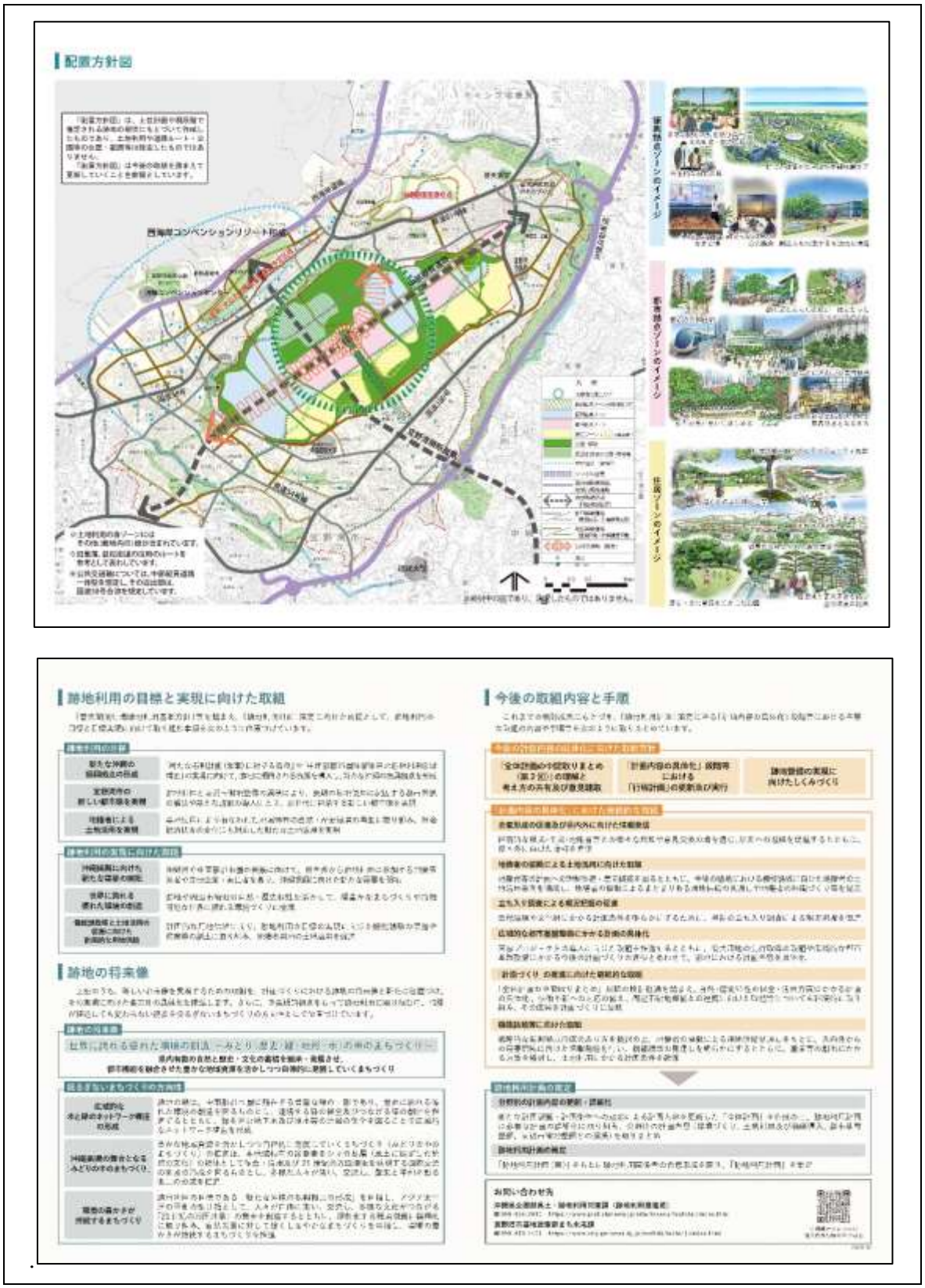
活用すべき自然・歴史特性

・計画の前提となる活用すべき自然・歴史特性の一例

普天間飛行場

首里城

図Ⅲ－27　パンフレット（１／２）



図Ⅲ－28　パンフレット（２／２）

５．ホームページの更新

本節では、今年度実施したホームページの更新内容について整理し、今後の展開について述べる。

（１）コンテンツの更新

PV、イベントの報告など新たなコンテンツを順次格納し、サイトのアップデートを行い、地権者、県民・市民に情報発信の充実を図った。

更新項目は、以下のとおりである。

【更新項目】

・イベントの開催告知
・イベント開催報告（普天間未来予想図パネル展）
・「バーチャル普天間未来シティ」を追加

（１）－１　イベントの開催告知

沖縄県及び宜野湾市のホームページにおいて、イベントの開催告知を行った。

図Ⅲ-29　告知チラシ（再掲）

（1）－2　イベントの開催報告

12 月に開催した「普天間未来予想図パネル展」 の開催結果を会場風景、展示内容、来場者属性、アンケート集計結果を抜粋して、来場された方や初めて見る方にも概略がつかめるようにまとめた。

①トピック画像等の修正

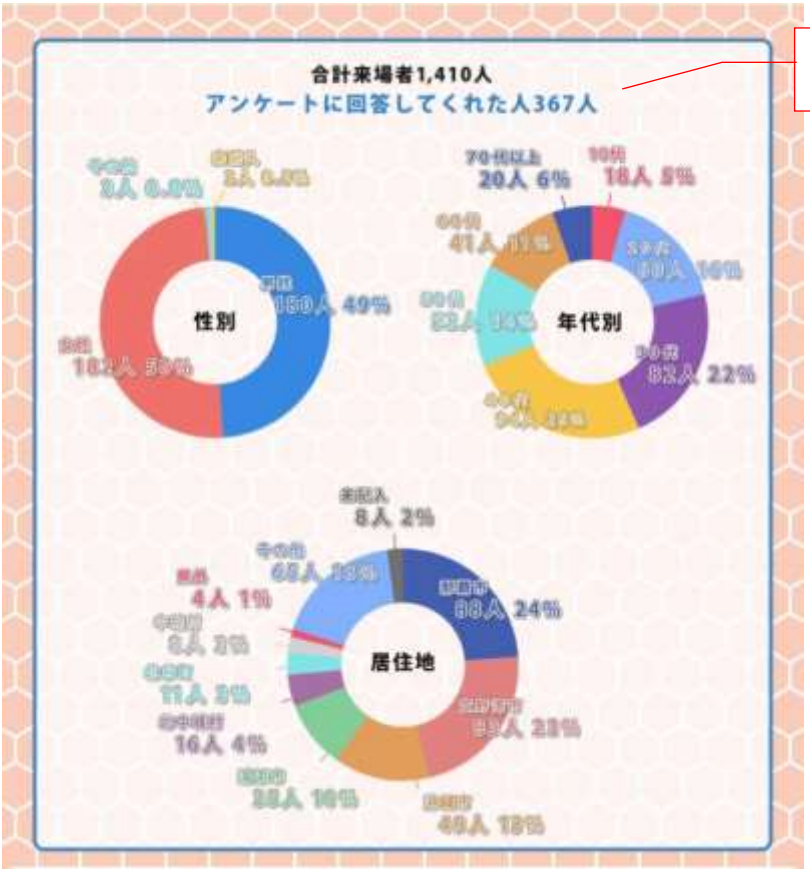
・背景の修正
・文言の修正
「体験イベント」→「パネル展」

・文言の修正
「体験イベント」→「パネル展」

②イベント開催報告ページ

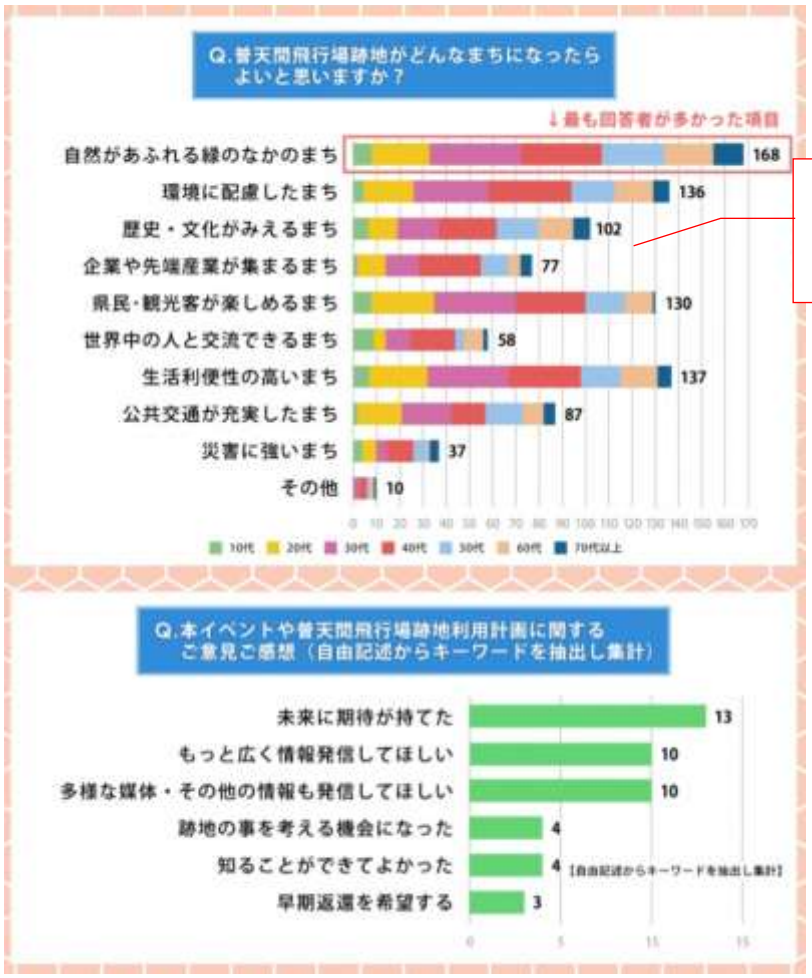
12 月に「サンエー那覇メインプレイス」、「イオンモール沖縄ライカム」、「サンエー宜野湾コンベンションシティ」において、パネル展を開催したことを紹介

パネル展の概要を紹介
イベントの展示内容や会場の風景を写真で分かりやすく掲載

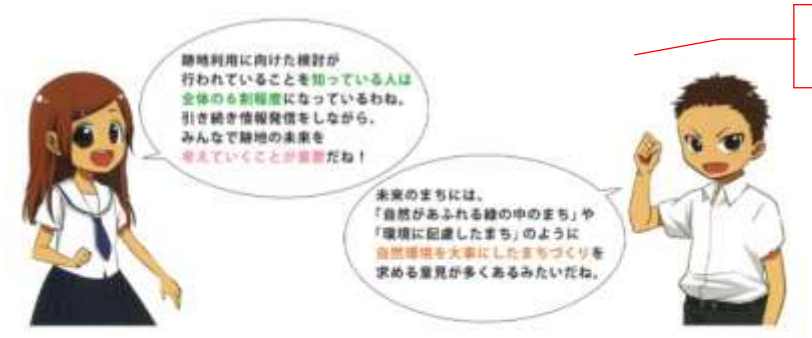


来場者の属性を性別、年代、居住地で紹介

会場内で実施したアンケート調査（普天間飛行場の存在、跡地利用に向けた取組の認知）の結果を紹介



会場内で実施したアンケート調査（普天間飛行場跡地に関するご意見、イベントの感想等）の結果を紹介



キャラクターのコメントにより、アンケート結果のまとめを紹介

・「こども霞が関見学デー開催イベント」を過去のイベントに移動
・イベントの開催年度を掲載

（1）－3 「バーチャル普天間未来シティ」

現在、検討されている跡地利用計画をもとに作成した仮想空間「バーチャル普天間未来シティ」へのリンクを追加した。

「バーチャル普天間未来シティ」へのリンクを追加

（２）アクセス解析（２月末まで集計）

Google アナリティクスを使いＨＰのアクセス解析を行った。

月毎のアクセス数は、平均約 522 名（昨年度(令和２年度)367 名、一昨年度(令和元年度)452 名）のユーザーが来訪し、約 1,316 ページビュー（昨年度 1,157 ページビュー、一昨年度 1,282 ページビュー）、１ユーザー当たり約２ページを閲覧しており、昨年度及び一昨年度と比較すると、来訪者及びページビュー数ともに増加傾向であることが分かる。一方で、令和元年に実施した「こども霞が関見学デー」及び今年度 12 月に実施した「普天間未来予想図パネル展（巡回展示）」の期間中において、ホームページ閲覧者の著しい増加が見られなかったことから、今後の情報発信イベントでは、計画内容の紹介のみならず、本ホームページ等の存在を周知することも必要であると考えられる。

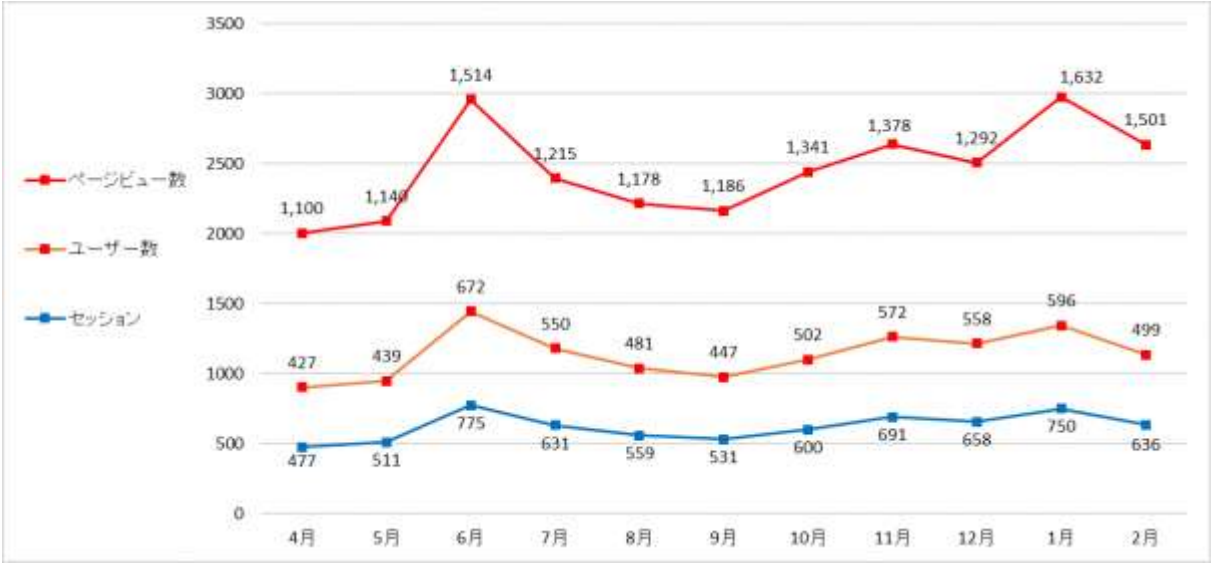
来訪者が多く閲覧しているページについては、「計画のポイント」としてまとめて掲載している「基地が返還される／まちがつながる／人々が集まるまちができる」が上位となっている他、未来のまちのイメージを紹介している「未来のまちイメージＰＶ」へのアクセスが多くなっている。また、サイト内のユーザーの動きとしては、複数のページを閲覧した来訪者は全体の３割で、残りの７割の来訪者はサイト内で遷移せずに離脱していることがわかる。

エリア別のアクセス数については、米国や中国等の外国からのアクセスがわずかにあるものの約 98%が日本となっている。また、市町村別のアクセス数に関しては、那覇市が 15%と最も多く、次いで大阪市 12%、横浜市９％の順となっており、宜野湾市からのアクセスは、６番目に多い値であるものの全体の約３％にとどまっている。県外市区町村からのアクセスについては、人口の多い市区町村（令和３年 12 月時点の全国市区町村人口ランキング：１位 横浜市、２位 大阪市、３位 名古屋市）からのアクセスが相対的に多くなっていると考えられるが、「こども霞が関見学デー」を開催した令和元年度に限っては、新宿区と千代田区からのアクセス数が高くなっていることから、情報発信イベントにより東京都民を中心とするイベント参加者の関心を高める効果があったのではないかと推察される。

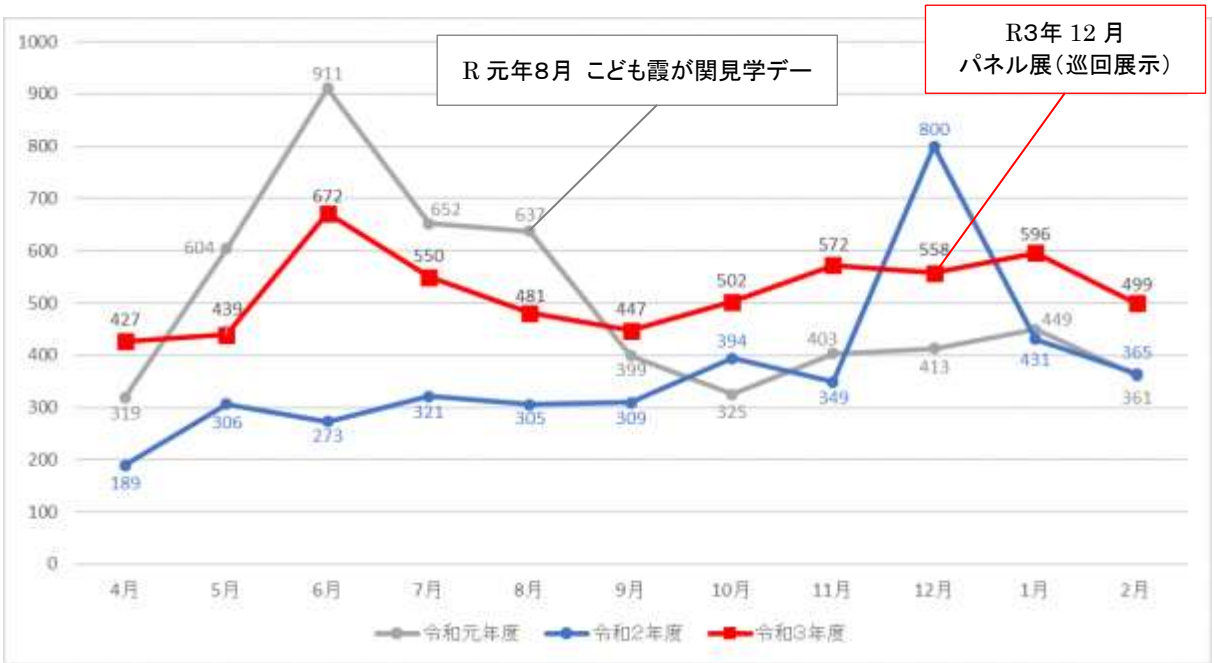
ホームページへのアクセスに利用している端末の内訳については、スマートフォン等のモバイルが約 52%と最も多く、次いで PC（デスクトップ）が 44%、タブレット３％の順となっている。過去２年間の利用端末の推移においても、モバイルが最も高い割合を占めていることから、ホームページの更新にあたっては、モバイルからの見え方を念頭に置いたデザイン、コンテンツ制作を検討する必要があると考える。

表Ⅲ－８　月毎のアクセス数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
セッション	477	511	775	631	559	531	600	691	658	750	636	6,819
ユーザー数	427	439	672	550	481	447	502	572	558	596	499	5,743
ページビュー数	1,100	1,140	1,514	1,215	1,178	1,186	1,341	1,378	1,292	1,632	1,501	14,477
ページ／セッション	2.31	2.23	1.95	1.93	2.11	2.23	2.24	1.99	1.96	2.18	2.36	平均 2.12
訪問時の平均滞在時間	01:36	01:48	01:26	01:44	01:55	01:53	01:51	01:34	01:36	02:35	02:23	平均 01:51
直帰率	62.47%	63.21%	65.55%	66.88%	64.04%	62.15%	64.33%	65.70%	67.17%	66.00%	63.21%	平均 64.79%



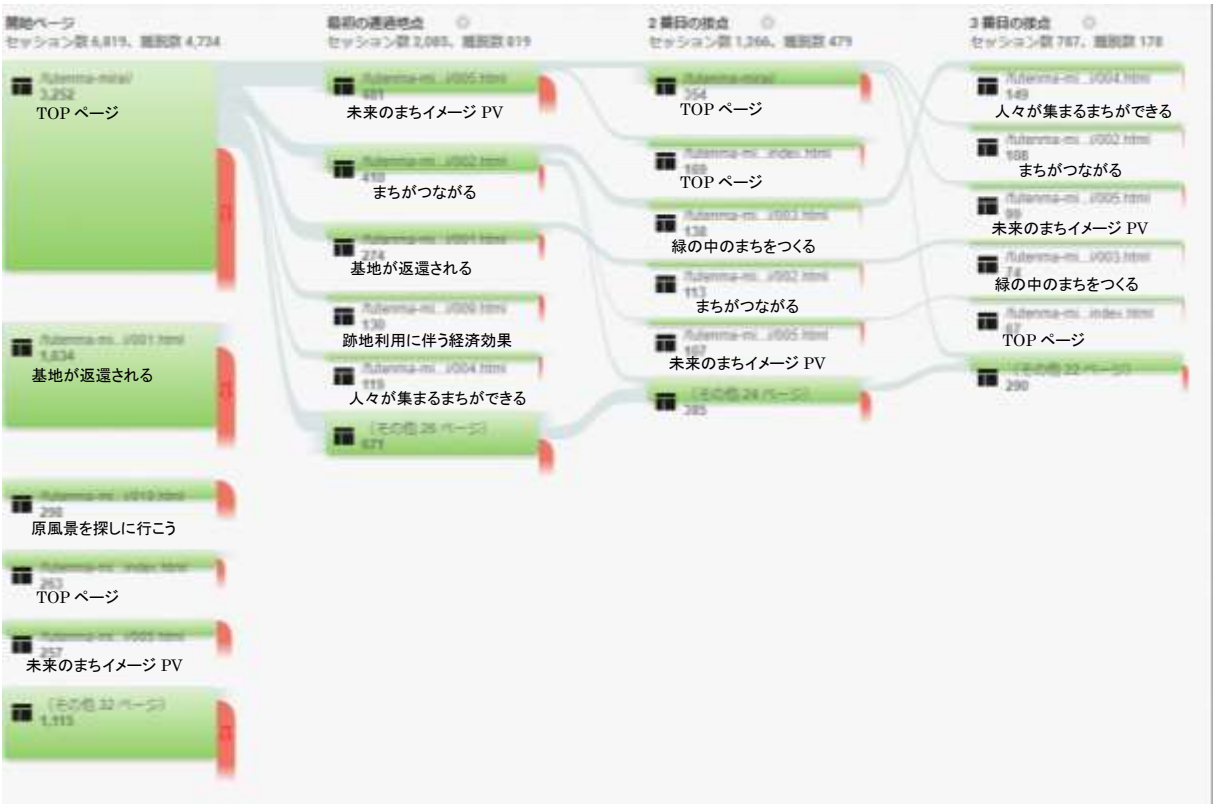
【用語解説】セッション：アクセスユーザーがサイトに流入してから離脱するまでの一連のページ遷移
ユーザー数：指定した期間にサイトにアクセスしたユーザーの数（同じユーザーは 1 回だけカウント）
ページビュー数：閲覧されたページの合計数。同じページが繰り返し表示された場合も集計
ページ／セッション：1 セッションあたりのページビュー数。1 回あたり何ページを閲覧したのかを判断
訪問時の平均滞在時間：1 セッションあたりの平均滞在時間
直帰率：1 ページだけを閲覧した訪問数の割合



図Ⅲ－30　ユーザー数の推移

表Ⅲ－９　ページ別ページビュー数（上位 10 ページのみ掲載）

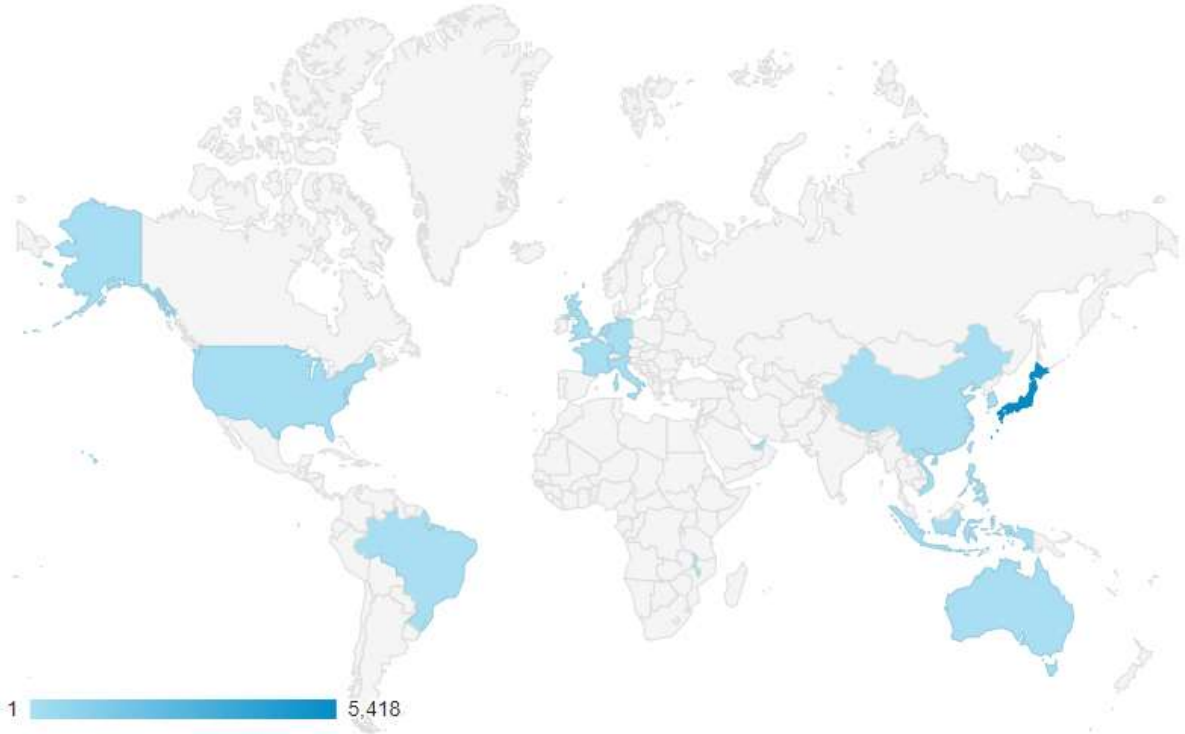
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
トップページ	320	385	583	403	378	317	356	362	421	464	300	4,289
基地が返還される	183	149	211	169	146	233	230	296	250	253	259	2,379
未来のまちイメージPV	141	126	151	128	126	129	119	147	97	173	89	1,426
まちがつながる	76	58	105	72	70	74	83	96	80	95	77	886
人々が集まるまちができる	51	54	89	51	52	48	70	61	53	62	46	637
跡地利用に伴う経済効果	46	46	45	48	41	46	58	55	40	89	87	601
緑の中のまちをつくる	35	31	66	50	50	27	42	47	42	53	36	479
原風景を探しに行こう！	27	22	33	57	53	29	34	26	30	38	43	392
模型で見るむかしの風景ページ	23	34	26	26	24	26	35	33	45	41	28	341
緑の中のまちづくり	19	33	19	24	32	22	21	17	25	28	35	275



図Ⅲ－31　サイト内のユーザーの動きの解析

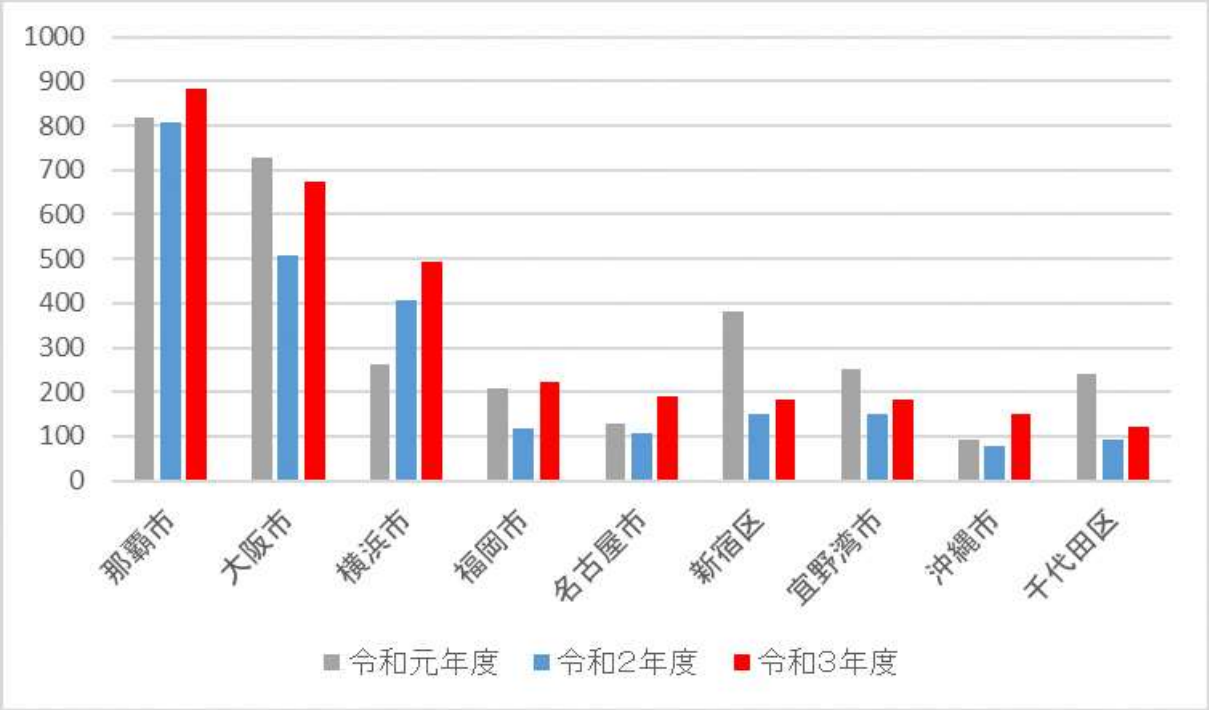
表Ⅲ－10　エリア別（国別）のアクセス数（上位 10 か国のみ掲載）

国	ユーザー	新規ユーザー	セッション	直帰率	ページ/セッション	平均セッション時間
日本	5418	5402	6704	64.44%	2.14	112.77
アメリカ	56	56	56	85.71%	1.54	27.04
中国	12	12	12	66.67%	1.92	133.83
インドネシア	9	9	9	100.00%	1.00	0.00
ドイツ	4	4	4	100.00%	1.00	0.00
韓国	4	4	4	75.00%	1.50	5.25
シンガポール	4	4	4	100.00%	1.00	0.00
不明	4	4	4	100.00%	1.00	0.00
オーストラリア	3	3	3	100.00%	1.00	0.00
台湾	3	3	3	100.00%	1.00	0.00
合計	5531	5515	6819	（平均）64.79%	（平均）2.12	（平均）111.35



表Ⅲ－11　エリア別（市区町村別）のアクセス数（上位 10 地域のみ掲載）

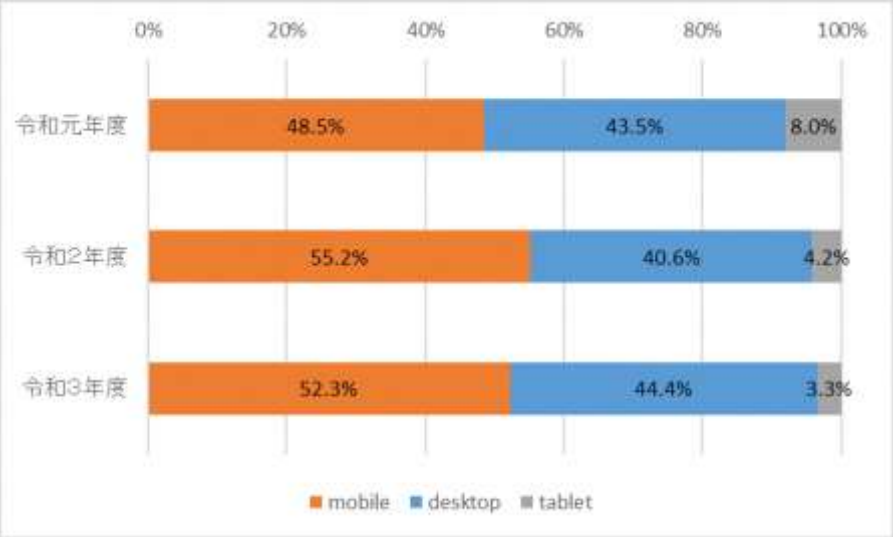
市区町村	ユーザー	新規ユーザー	セッション	直帰率	ページ/セッション	平均セッション時間
那覇市	882	846	1151	56.21%	2.65	156.65
大阪市	674	634	743	68.64%	1.83	80.75
横浜市	494	473	579	68.57%	1.82	67.85
福岡市	221	212	255	67.06%	1.84	79.89
名古屋市	191	184	208	69.23%	1.77	69.95
新宿区	184	170	200	65.00%	2.06	96.28
宜野湾市	184	170	230	51.30%	2.63	146.33
不明	171	160	203	74.88%	1.74	108.82
沖縄市	149	142	183	51.37%	2.37	160.56
千代田区	121	107	153	62.75%	2.27	190.66
合計	5,808	5,515	6,819	（平均）64.79%	（平均）2.12	（平均）111.35



図Ⅲ－32　市町村別アクセス数の推移

表Ⅲ－12　利用端末別（ＰＣ、タブレット、スマートフォン）のアクセス数

デバイス	ユーザー	新規ユーザー	セッション	直帰率	ページ/セッション	平均セッション時間
mobile	2892	2889	3412	68.61%	1.78	79.28
desktop	2454	2441	3168	59.69%	2.54	148.44
tablet	185	185	239	77.82%	1.60	77.53
合計	5,531	5,515	6,819	（平均）68.71%	（平均）1.97	（平均）101.75



図Ⅲ－33　利用端末の推移

（３）今後の展開

今年度までに毎年コンテンツの更新を行いながら、中身の充実を図ってきた。現状のサイトで見られるコンテンツは以下のとおりである。

・動画で見る普天間未来予想図（中間取りまとめ）
・バーチャル普天間未来シティ
・未来のまちイメージＰＶ（動画）
・「緑の中のまちづくり」（海外事例動画あり）
・体験イベント（アンケート結果あり）
・模型で見る昔の風景（宇宜野湾・字神山まちまーい体験報告含む）
・ゆめのあるぎのわんみらい（児童生徒絵画コンクール受賞作ギャラリー）
・県民の声（地権者、市民の活動紹介、体験イベント紹介、絵画コンクール紹介、跡地利用計画提案コンペ受賞作紹介）
・中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想
・跡地利用に伴う経済効果
・関連リンク
・中間取りまとめ（英語版）

ホームページでは、中間取りまとめのポイントやこれまで作成してきた未来のまちイメージＰＶ、さらには県民・市民の声等、跡地利用に関する様々な取組を分かりやすく発信している。

今年度開催したイベントのアンケート結果から、６割以上の方が跡地利用計画策定に向けた検討が行われていることを知っているが、ホームページの存在は８割以上が知らなかったと回答している。また、ホームページのアクセス解析結果より、ホームページへの来訪者は過年度と比較して増加しているものの微増であり、情報発信が十分であるとは言い切れない状況となっている。

そのため、過年度実施したイベント開催時にホームページの情報を掲載したノベルティグッズを配布する等の広報活動のみではなく、県民・市民・地権者が何度もアクセスしてみたいと思えるようなコンテンツを追加・周知する必要がある。